

第2部

観光客1000万人時代の

インフラ整備を考える

- ▶事業毎からテーマ毎の目的・目標へ（総合力の発揮）
 - ▶例 観光振興、防災
- ▶沖縄観光振興に貢献するインフラ整備
 - ①観光資源の整備
 - ②観光地等の地域支援
 - ③交通網の整備
 - ④情報発信の拡充
 - ⑤環境保全
 - ⑥防災・危機管理
- ▶観光客1000万人時代を迎えるにはインフラ整備が必要
 - ①見える化（わかりやすく示す、見通しを示す、情報の共有）
 - ②総合的な連携施策

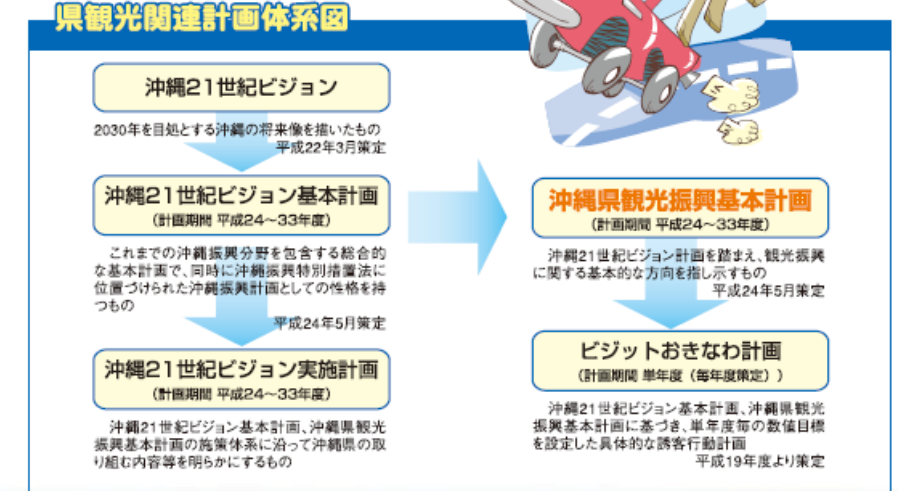
○沖縄県観光振興基本計画(第5次)で10年後に入域観光客数1000万人を目指している。
○25年度ビジットおきなわ計画で630万人としていた数値目標に対して過去最高の658万人を記録した。

沖縄県の目指す観光の将来像と目標

沖縄県観光振興基本計画(平成24年度～平成33年度)
目指す将来像:世界水準の観光リゾート地を目指す。

- 10年後の達成目標
- 1 観光収入 1兆円
- 2 観光客一人当たり県内消費額 10万円
- 3 平均滞在日数 5日
- 4 人泊数 4,027万人
- 5 入域観光客数 1,000万人

(国内客800万人・外国客200万人)



平成26年度ビジットおきなわ計画
単年度ごとの数値目標、達成に向けた施策展開を盛り込んだ具体的な誘客行動計画。

○26年度の具体的な数値目標は690万人。

項目	平成26年度 目標値	対前年度比	平成25年度
観光収入	4,970 億円	(11.4%)	4,463 億円 (見込み値)
(うち外国人観光客)	640 億円	(37.9%)	464 億円 (見込み値)
観光客一人当たりの県内消費額	72,000 円	(6.2%)	67,817 円 (見込み値)
(うち外国人観光客)	80,000 円	(8.1%)	73,992 円 (見込み値)
平均滞在日数	3.95 日	(0.18日)	3.77 日 (見込み値)
(うち空路外国人観光客)	5.50 日	(0.46日)	5.04 日 (見込み値)
人泊数	2,004 万人泊	(9.8%)	1,825 万人泊 (見込み値)
(うち空路外国人観光客)	258 万人泊	(46.6%)	176 万人泊 (見込み値)
入域観光客数	690 万人	(4.9%)	658 万人
(うち外国人観光客)	80 万人	(27.0%)	63 万人

出典:平成26年度ビジットおきなわ計画(沖縄県)

- ## 誘客1000万へ行程表



(四) 附錄 (續)

沖縄タイムス (11面)
平成26年3月11日(火)

観光危機
県が管理計画

来年度
業界保護へ仕組み

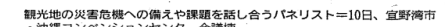
果は来年、県内観光にマナスの影響を与える多様な「危機」を想定し、対策や期回復などに「つなげる」。「観光危機管理計画（仮称）」の策定に着手する。地や津波、台風など自然災害とまじり、風俗習慣や経済・社会問題から派生する危機も幅広く想定。観光客の生命・財産はじめ、観光地・施設、従事者を含め観光界全体をすり、危機からの早期立ち回りを促す仕組みを整える。観光分野に特化した危機管理計画の策定は、全国の都道府県で初の試み。

計の骨子案（抜粋）によると、観光危機の定義として「観光・旅行者、観光地・観光産業に望ましくない影響を与える状況と認められた時間と不」

の「危機」から国民の生命・財産をすることが定められていて、観光産業の「危機」には対応し切れていない、対応と述べた。

象や危機の想定範囲を拡大することで、両国が補充する関係になのではない

＝10日、宜野湾市

[illegible][illegible]

正確に早く
情報を提供

シンポで方向性探る

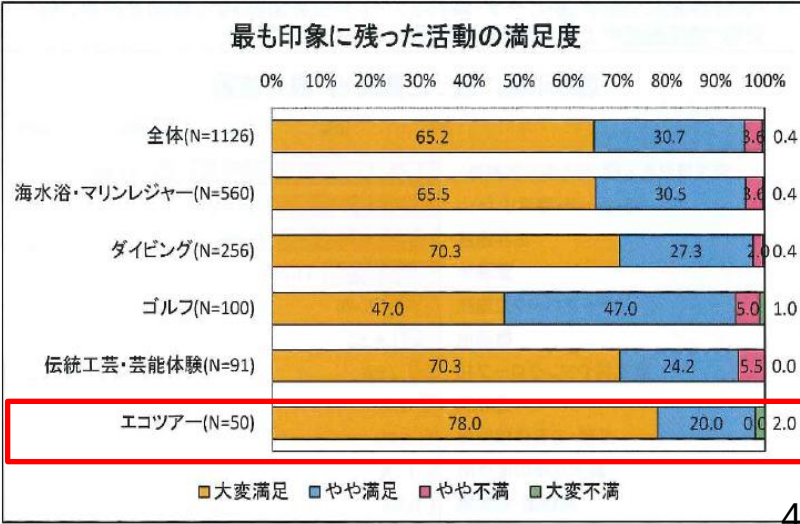
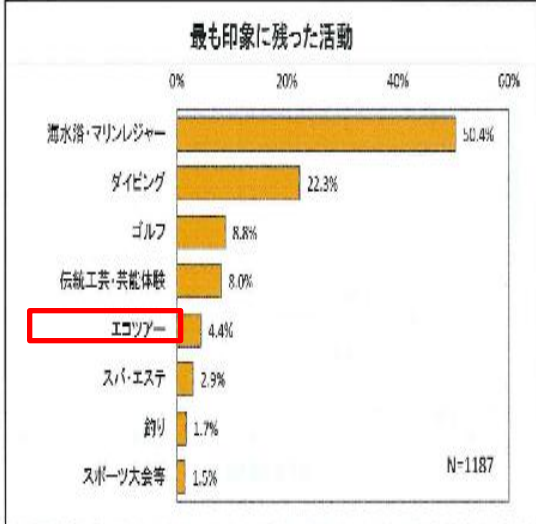
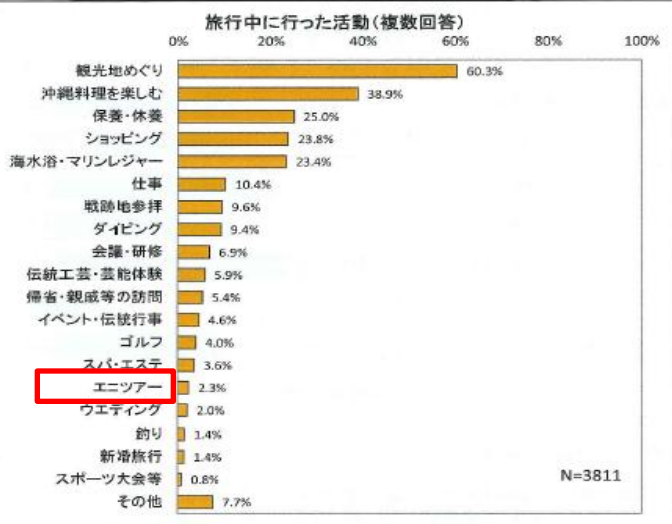
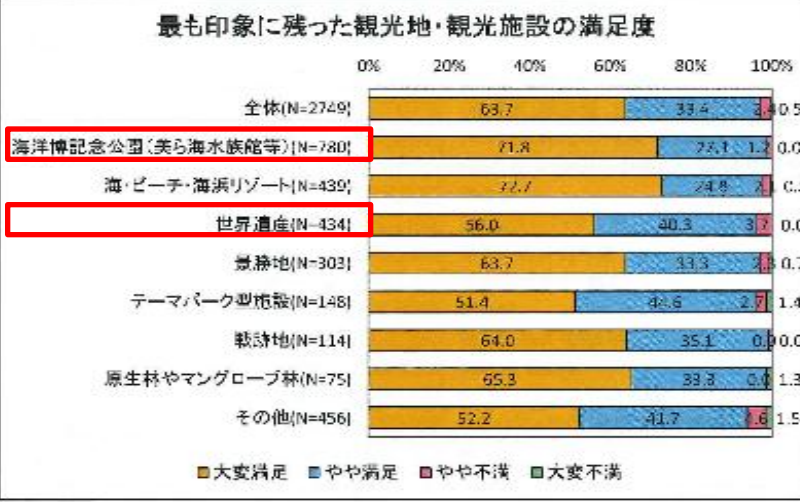
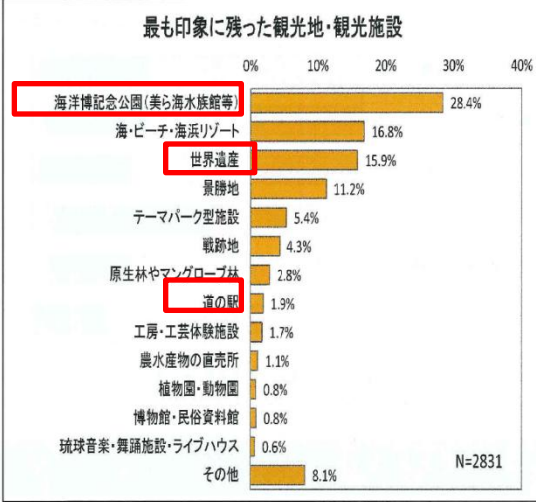
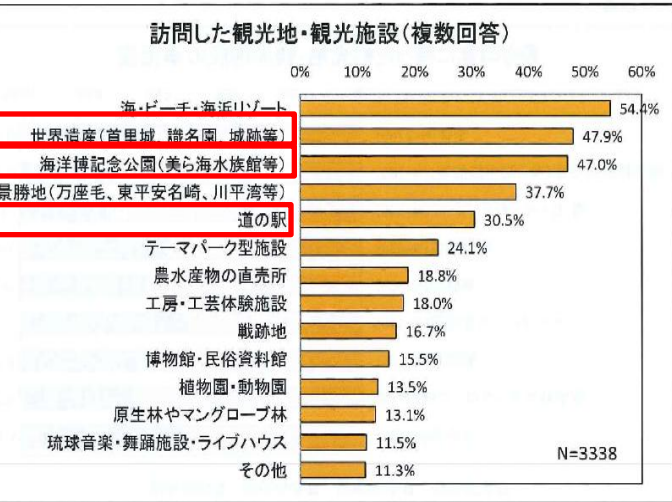
など災害が頻発した際の対策を、主権の沖縄県と台湾を考へる。光危機管理「シゴム200」は、14日、官野満市の沖縄コンベンションセンターで開かれた。沖縄の観光危機管理に備えることをテーマにあり、業界と行政関係者も現れ、業界について意見交換し、今後の危機管理の方向性を探った。

パネルディスカッションに

[illegible]

○沖縄観光の満足度に関する調査(沖縄県)によると、旅行中に訪問した観光地・観光施設の中で、世界遺産(首里城等)、海洋博記念公園(美ら海水族館等)、道の駅が上位にランクし、かつ満足度も高い。

○エコツアーは活動としては少数であるが満足度は高いという結果になっている。



①沖縄の観光客数と国営公園の入園者数

- 沖縄県の平成25年度の観光客数は658万人で過去最高。
国内観光客及び海外観光客ともに過去最高。
- 国営沖縄記念公園の平成25年度入園者数は643万人と過去最高を記録。
海洋博地区は408万人で初めて400万人を超え、首里城も235万人。

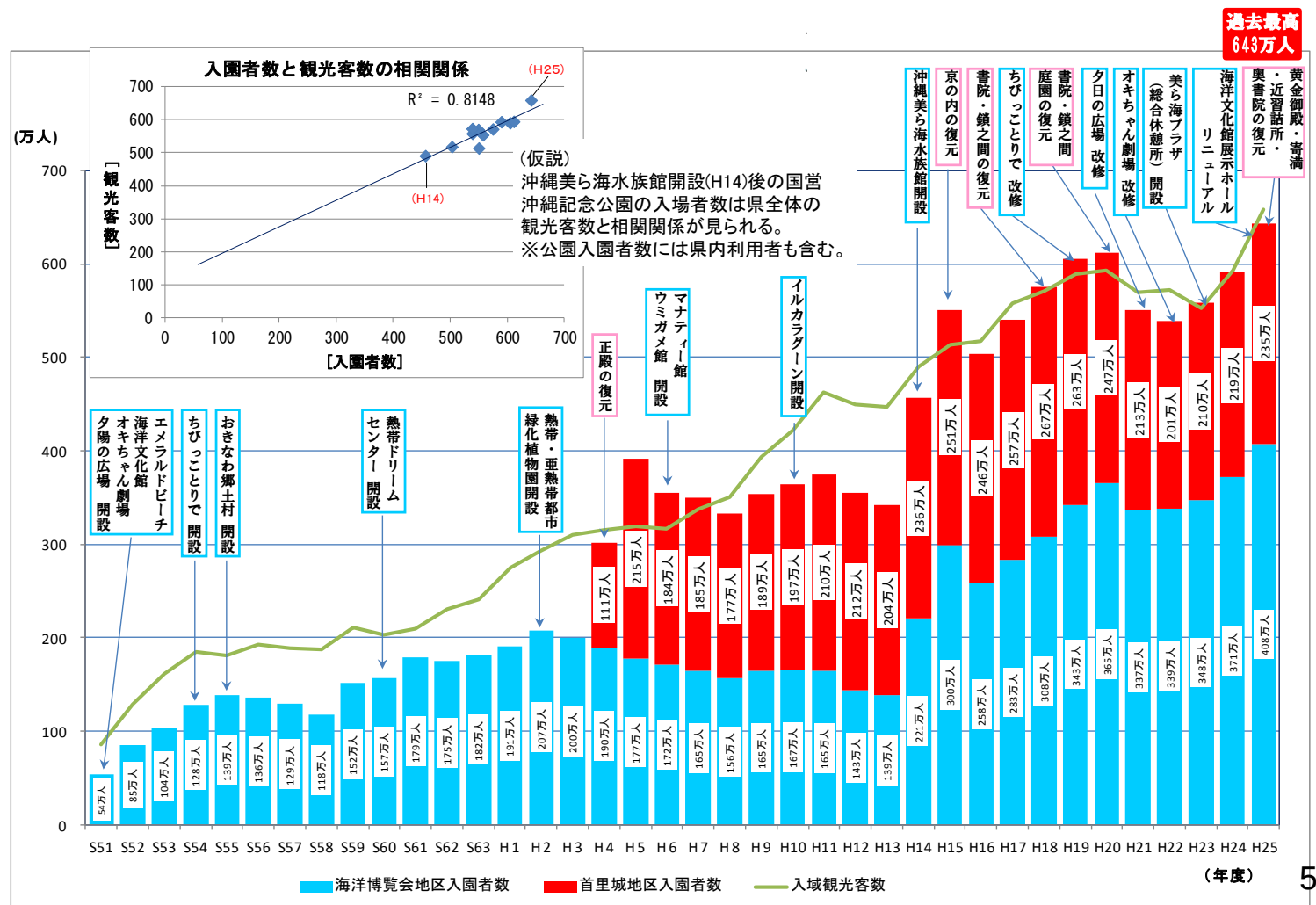
〔H25開園施設〕



夏休み期間中からリニューアルオープンした海洋文化館の大型スクリーン



1月にオープンした黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院



① 沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)等と連携して、海外への情報発信を行っています。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。

- 台湾ドラマ 「美男子(イケメン)ですね。」
放送：平成25年4月～
※台湾・香港・マレーシア・シンガポール等で放映
撮影期間：平成25年1月8日～11日
- 韓国KBSドラマ 「サメ」「復活」「魔王」シリーズ
放送：平成25年5月～
撮影期間：平成25年5月11日～15日
- 中国映画 「有種你(ユウジョンニー)愛(アイ)我(ウォー)」
上映：平成26年2月～ ※中国・北京で上映
撮影期間：平成25年10月19日～22日

※ 韓国ではドラマ放映後に、ロケ地の問合せも多く、韓国の旅行会社では、海洋博公園を観光コースに組み入れ、積極的誘客を行っている。(韓国 M&S TOUR CEO 情報)

【 海外からの取材・ロケ件数 】

★ 海洋博地区 ★

- H24年度：44件 (全件数中の海外からの比率 12%)
 - ・ 中国 16件、韓国 11件、台湾 2件、その他15件 (ベトナム、フランス、イギリス等)
- H25年度：38件 (同 海外からの比率 12%)
 - ・ 中国 16件、韓国 10件、台湾 4件、その他 8件 (タイ、シンガポール、イギリス等)

★ 首里城地区 ★

- H24年度：32件 (全件数中の海外からの比率 19%)
 - ・ 中国 4件、韓国 10件、台湾 2件、その他 16件 (タイ、アメリカ等)
- H25年度：32件 (同 海外からの比率 18%)
 - ・ 中国 13件、韓国 3件、台湾 2件、その他 14件 (オーストラリア、マレーシア等)

沖縄観光の代表的な施設として取り上げられ、近年は旅行系の情報誌のみならずファッション誌やウェディング系の情報誌の取材も増加。



中国映画 ロケの様子



タイのファッション誌(若い女性向け)



台湾の旅行雑誌

①公園の素材を活かして沖縄観光の魅力をPR

- 国営沖縄記念公園の管理運営を行っている（一財）沖縄美ら島財団が、航空会社、旅行会社、地元自治体等と連携して沖縄観光の魅力を全国各地に発信しています。
- 公園施設の美ら海水族館やジンベエザメ、色とりどりの花々など、地域の魅力、また公園の素材を効果的に活用し、大都市圏をはじめ全国各地に旬な情報を届けています。

■46th Sony Aquarium

- 日時：H25年7月19日～9月1日 45日間
- 開催場所：東京都中央区銀座5-3-1 銀座ソニービル
- ソニービル開業以来毎年開催している銀座の夏の風物詩。財団としての協賛、監修は2006年以降8回目、展示水槽と映像・IT機器で水族館と沖縄の海の魅力をPR。「美ら島」「美ら海」の自然を演出、ソニーの超高精細・広色域を実現する「4K」の技術を使った最新の「映像」を体感。



都心に熱帯の魚たち

■ジンベエジェット就航

H24年水族館開館10周年、日本トランスオーシャン航空45周年を記念して、両者がタイアップして特別塗装機「ジンベエジェット」を就航させた。

- 就航路線：JTA就航全路線
- ジンベエジェット1号機
 - ・就航開始日：H24年12月26日
 - ・水族館の人気者であるジンベエザメをイメージした機体塗装。
- ジンベエジェット2号機(さくらジンベエ)
 - ・就航開始日：H26年1月5日
 - ・やんばるの桜(カンヒザクラ)をイメージさせたサクラ色を用い、機首上部へは桜の花が描かれ、ジンベエザメ「ジンタ」のパートナーを連想させるようなデザイン。

1号機 2号機(サクラジンベエ)

2号機(サクラジンベエ)



■沖縄やんばる春めぐり

- 実施期間：H25年10月～H26年2月
- 日本一早い春の到来をジェット気流にのせて告げるというコンセプトのもと、北部自治体等の各団体との連携を図り、魅力のある旅行商品開発に努め、「やんばる」への誘客促進を図る。
- 主な事業内容：
 - ・スカイネットアジア航空と連携、ラッピングジェットの就航（沖縄やんばる号）
 - ・旅行会社等と連携し、ツアー商品の造成、キャンペーン等を実施
 - ・特設サイトの開設、国内外の雑誌等にて広告展開



① 沖縄北部ダム湖サミットの開催について

- 沖縄の発展を支える水、本島北部地域の水源地環境の将来的な保全是沖縄県における重要な課題。
- 直轄多目的10ダムの完成となる一連の節目において、北部ダム湖サミットを開催（2月22日（土）、名護市内）。
- 水源地域ビジョンをテーマに議論を行い、具体的な行動の第一歩としてサミット宣言を取りまとめた。

沖縄北部ダム湖サミット宣言

私たちは、沖縄北部ダム湖サミットにおいて、やんばるの自然と水の大切さを念頭に、以下のとおり理念や方針を共有し、具体的な行動の第一歩とする。

- やんばるの貴重な自然は沖縄の宝であり、本島における貴重な水源地でもあることから、県民全体で森を守り、水を守ることが重要。
- 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらえるように努力。
- ダムの存在する北部地域の連携のみならず、中南部地域との交流・連携を促進。

平成26年2月22日
沖縄北部ダム湖サミット参加者一同



北部ダム湖サミット実施状況

コーディネーター： 沖縄国際大学学長

パネリスト：

- ・ ダム所在市町村長
（国頭村、大宜味村、東村、名護市、金武町、宜野座村）
- ・ 中部市町村会会長（うるま市長）
- ・ 観光関連代表（沖縄コンベンションビューロー会長）
- ・ NPO等代表（玉水ネットワーク会長）
- ・ 内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所長

- 【主な意見】
- ・ 中南部（受益地）の水に対する関心の低下
 - ・ やんばるの森は沖縄の宝
 - ・ 「青い海」につづく沖縄の売りは「亜熱帯の緑」
 - ・ 水源地における財源の不足
 - ・ 北部水源地における横連携の必要（北部トータルビジョンの必要）
 - ・ 中南部（受益地）等の関係者含めた継続的な議論の場の必要

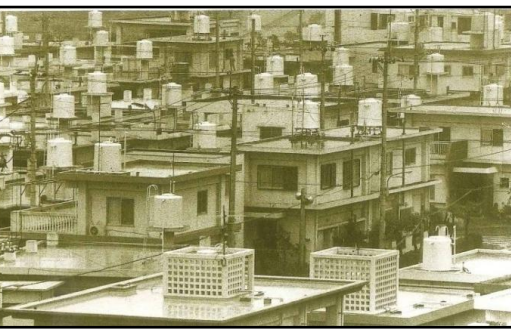
【今後の展開(案)】 ①ダム個々の水源地域ビジョンから総合的なビジョンを策定する
②水源地北部地域と中南部地域等との交流・連携の場を創出する

① 沖縄県本島を支える北部地域の水源地

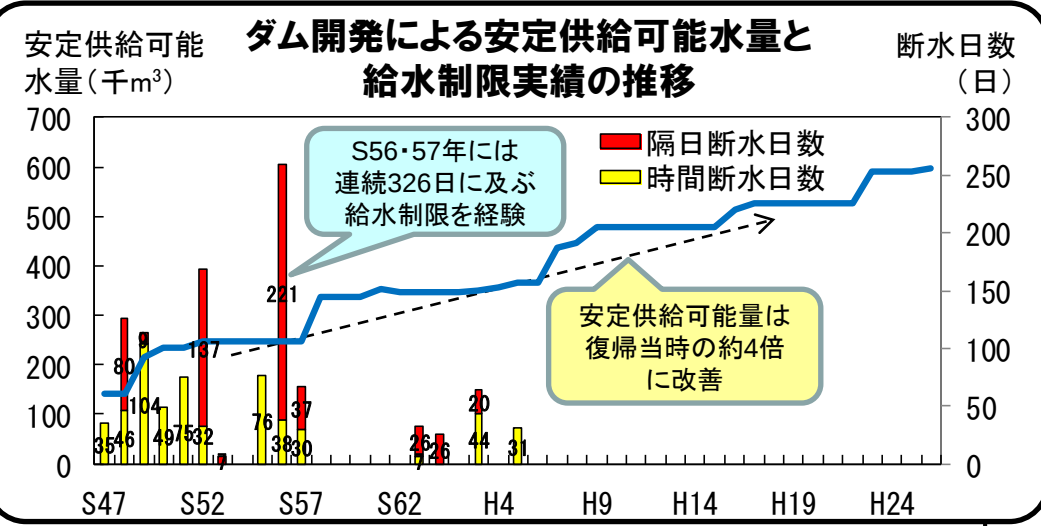
- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。
- 復帰以降、沖縄本島の水事情を改善するため多目的ダムの建設を推進(H25年度末で一連の計画の節目)。
- 平成6年度以降、給水制限が実施されていない(H26年3月1日で連続給水満20年)など、多目的ダムによる水源開発は、沖縄本島における安定的な給水を実現し、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。



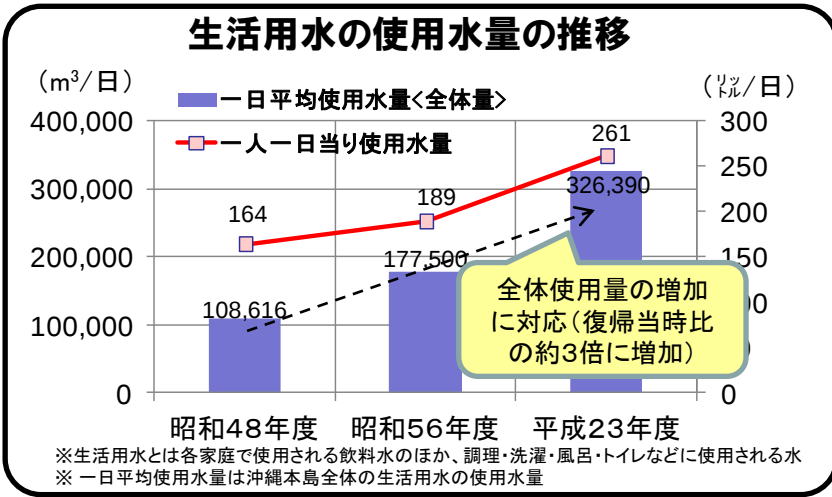
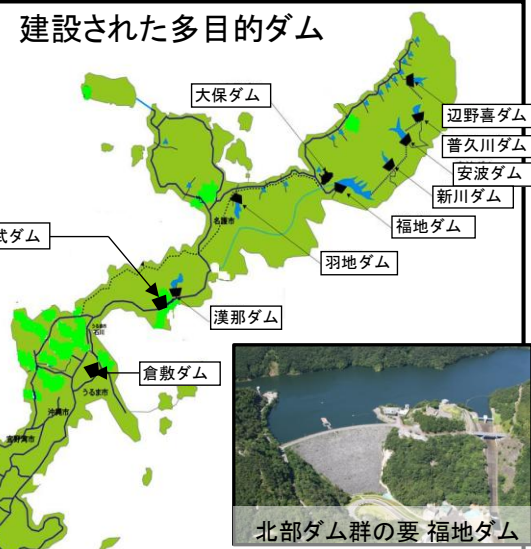
渇水当時の新聞記事



給水制限時の自衛手段
の屋上タンク



10ダム目となる金武ダムの竣工(H25年度末)

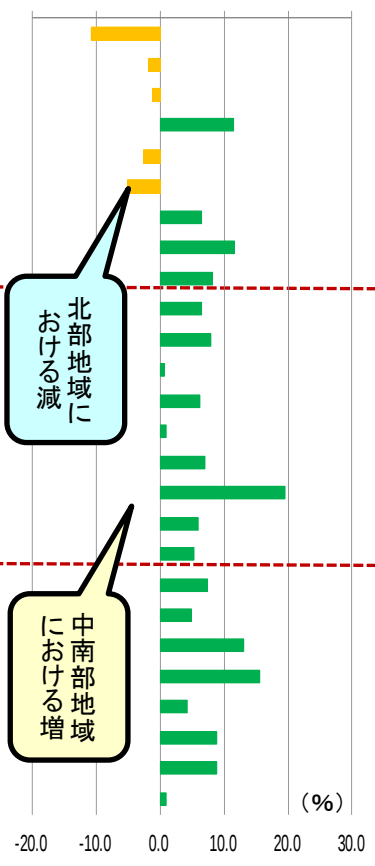


※倉敷ダムは瑞慶山ダムとして国が建設後、沖縄県が管理している。

① 沖縄本島における水需給地と経済発展の現状

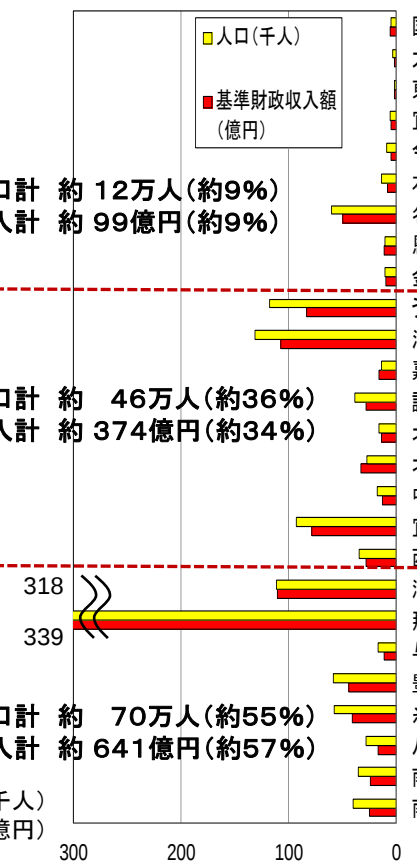
- 沖縄本島では、中南部を中心に開発が発展し、人口及び経済は中南部に集中。
- 沖縄本島中南部の生活基盤をなす水資源は、北部やんばるの水ガメに依存。
- 沖縄本島北部で供給される水源地環境の将来的な保全は、沖縄県における重要な課題。

沖縄県本島における人口動態(過去10年)



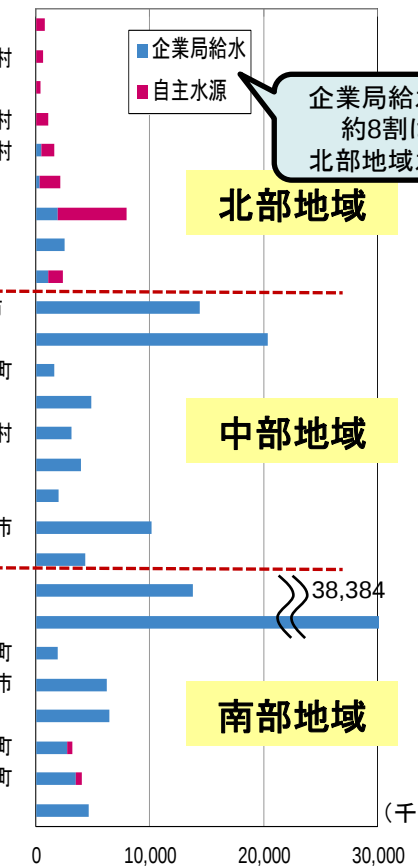
※ 平成13年度と平成23年度比較

沖縄県本島における基準財政収入額と人口



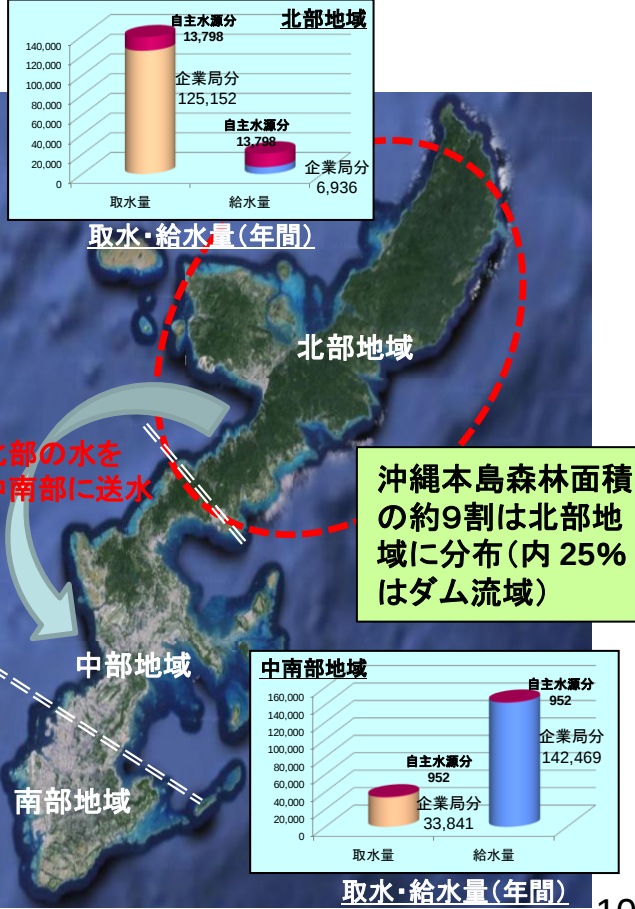
※ 基準財政収入額の算定となるのは、法定普通税を主体とした標準的な地方税収入

沖縄県本島における市町村別給水量



※ 出典「水量資料記録集(沖縄県企業局)」
「H23沖縄県の水道概要」「南部水道企業団資料」
より、沖縄総合事務局河川課作成
※ 給水量: 各市町村・水道企業団への水道水給水量(H23)

沖縄本島における水需給地



※ 取水量: ダム・河川・海水淡水施設等水源からの取水量(H23)
給水量: 各市町村・水道企業団への水道水給水量(H23)
(給水量は工業用水分を除く)

①北部水源地やんばるの自然体験の魅力

○ 水源地やんばるの自然やダム湖を活用した魅力ある取り組みについて、水源地域ビジョンによりダム所在市町村及びNPO、ダム管理者等で連携しながら実施。



ダム資料館での自然環境・水資源開発学習プログラム

大宜味村民泊の修学旅行生



大保ダム
ノルディック
ウォーキング

②「道の駅」による地域活性化(物産、観光、防災)

- 沖縄県内の「道の駅」は7駅（全国は1,014駅）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

「旅行好きが選ぶ 日本全国道の駅トップ20」： 県内7駅中4駅がランクイン
1位「道の駅」許田、5位「道の駅」かでな、16位「道の駅」ゆいゆい国頭、18位「道の駅」いとまん
(旅行口コミサイト「フォトラベル」発表)



【美ら海水族館】



【那覇港旅客線ターミナル】



【那覇空港】



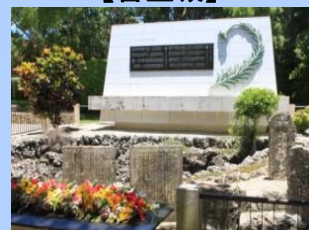
「道の駅」豊崎
「道の駅」いとまん
「道の駅」かでな
「道の駅」喜名番所
「道の駅」許田



沖縄本島



【首里城】



【ひめゆりの塔】

「道の駅」おおぎみ



道路情報・観光情報提供

「道の駅」ゆいゆい国頭



農産物直売所「ふるさと市」

「道の駅」喜名番所



観光案内所

「道の駅」許田



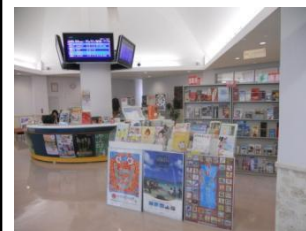
県内初の「道の駅」

「道の駅」いとまん



お魚センター

「道の駅」豊崎



空港の離発着情報提供

「道の駅」かでな



展望台から嘉手納基地一望

②地域に根ざした「道の駅」

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や地元高校との連携など、地元と密着した活動を推進（農家の育成や収入増にも貢献）。

○高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施（「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田）

○地元農林高校と老舗菓子店による特産品を活用した商品開発（ちんすこうにアグー脂を使った「きんそう」）（「道の駅」許田）



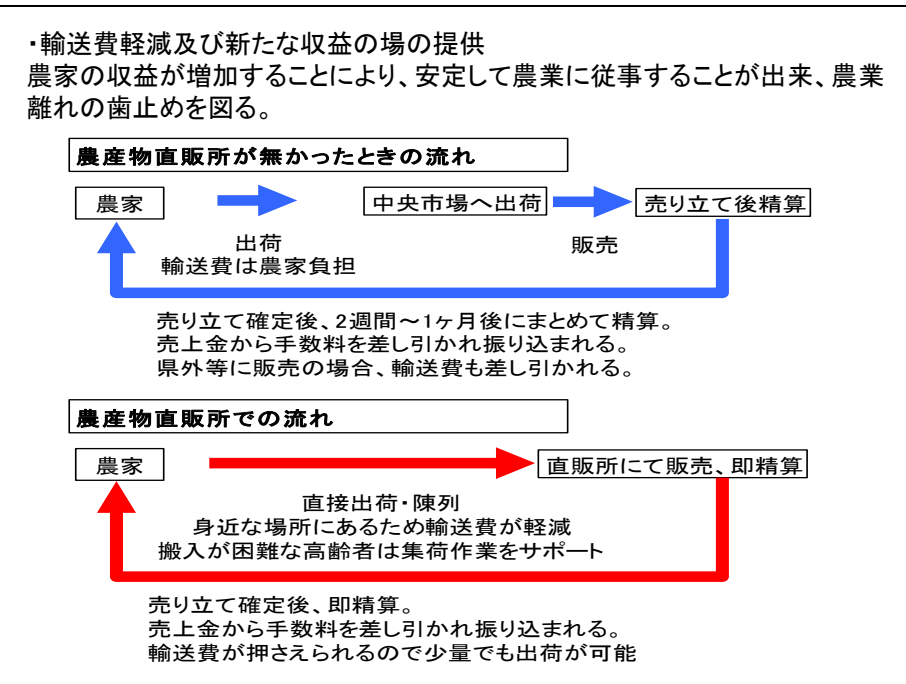
（パインの集荷）



（野菜の納入）



（地元高校生による商品の製造と販売PR）



○地元特産品の販売（「道の駅」喜名番所を除く各駅）



（賑わう販売所）



（野菜）



（魚）



（果物）



（地元特産・マンゴー）



（地元特産・パイン）

②「手づくり郷土賞」による地域支援

○優れた地域活動を評価する「手づくり郷土賞」を活用し、沖縄の魅力ある郷土づくりを全国にPRし、沖縄の元気につなげてまいります。

●中城村「古道ハンタ道と世界遺産」が平成25年度「手づくり郷土賞」を受賞

受賞団体の活動内容：中城城跡を中心に「グスクの会」が案内ボランティアを一年を通して行っており、村の歴史・文化を県内外に発信し、村内児童・学生の歴史教育の一翼を担い、観光にも寄与している。



【認定証授与式(H26.1.23)】



【古道ハンタ道の案内】



【認定証を受領する浜田村長】



【オリジナル紙芝居による案内】

「手づくり郷土賞」とは

良質な社会資本と優れた地域活動を一体の成果として発掘し、好事例として広く紹介することにより魅力ある郷土づくりに向けた取り組みが一層推進されることを目指して、創設（昭和61年度）された国土交通大臣表彰。

応募の注意事項

募集時期：毎年6月下旬～9月上旬

募集团体：社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体の単体又は地方公共団体との共同（平成25年度は全国で40件の応募があり17件が受賞）

近年の沖縄県内受賞案件

平成22年度
備瀬のフクギ並木（本部町）

平成24年度
災害を乗り越え、地域コミュニティ活動の核となった歴史と伝統の越來城水辺公園（沖縄市）

平成25年度
「古道ハンタ道と世界遺産」。郷土を愛し地域をおこすサークル活動（中城村）

受賞するとマスコミからも注目され、地域のPRにもなります。全国版のパンフレットでも紹介されます。

受賞された活動団体の方々の励みにもなり、更に活動の輪が広がっていきます。

是非、応募のご検討をお願いします。

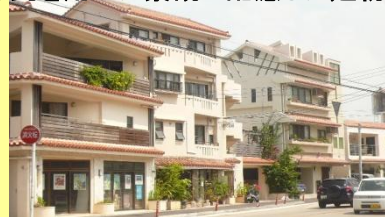
（お問い合わせ：沖縄総合事務局 開発建設部 建設行政課 TEL：098-866-1908）

②魅力あるまちづくりの支援

- 街路事業：豊かで公共空間を備えた良好な市街地の形成等
- 街なみ環境整備事業：住民が協力して美しい景観の形成、良好な居住環境の整備を行う事を支援
- 区画整理事業：中心市街地の活性化、商業、業務等の拠点市街地の形成等
- 市街地再開発事業：細分化された敷地の統合、共同建築物の建築、公園、広場、街路等の公共施設の整備等
- 都市再生整備計画事業：地域の歴史、文化、自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくり等
- 電線共同溝事業：安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、景観の向上等

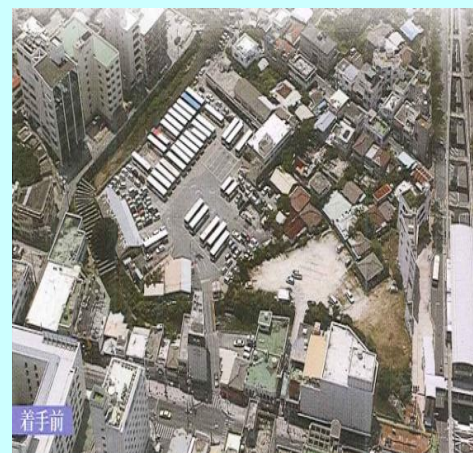


赤瓦を用いた景観に配慮した建物



琉球石灰岩を用いた歩道と路肩

街路事業：龍潭線(県道29号線)



市街地再開発：牧志・安里地区第一種市街地再開発事業



文化センター（南風原町）



情報板と広場整備（浦添市）

都市再生整備計画事業：南風原町、浦添市



電線共同溝事業：那覇市(一般国道58号)



②沖縄らしい風景づくりの推進

○ 沖縄総合事務局では、美しい国づくり、地域づくりを進めるため、様々な施策に取り組んでいます。その一環として、沖縄県と連携して、市町村が「景観行政団体」となり景観行政の担い手となることを推奨しています。

○ 市町村では、景観計画の策定などを通じて、地域の特色に応じたきめ細かな規制や誘導方策を取り入れ、居住環境の向上や観光資源の創出などを図っています。国は、各種の事業、制度を整備し、市町村による取り組みを支援しています。

※ 「景観行政団体」とは、景観法により定義される景観行政を担う主体。政令市、中核都市、都道府県は自動的に景観行政団体となり、その他の市町村は、都道府県知事との協議・同意により景観行政団体になることが可能。

平成15年度 美しい国づくり政策大綱
平成16年度 景観法制定

平成24年 5月 沖縄21世紀ビジョン基本計画を策定
【施策展開】 沖縄らしい風景づくり

沖縄の各地域で個性溢れる風景・景観を創出
(歴史・文化的な景観や伝統的な集落、街なみの景観は、季節を問わない重要な観光資源)

【景観行政団体の形成推進】

市町村による景観法などに基づく取り組みが有効

<景観形成>

- ・地域の合意形成、景観計画の策定、景観地区の指定
- ・景観協力工事の負担軽減に係る助成

<景観管理>

- ・地域景観協議会の設立
- ・自立した地域活動に係る人材育成
- ・建設や建築など景観にかかわる開発の規制、誘導

<景観配慮>

- ・地域景観に適した市町村公共事業実施

街なみ環境整備事業

(建造物の外観修景、塀・樹木等の移設、道路の美装化、電線の地中化、集会所の整備など)



琉球石灰岩による舗装の美装化や赤瓦によるファサードの統一感を創出

2007年頃 【事例：龍潭通り(那覇市)の街なみ】 現在

空き家再生等推進事業

(空き家の取得(用地費除く)、移築、増改築など)



<活用のイメージ>
空き家の古民家を交流・展示施設や体験宿泊施設に改築

空き家の古民家 【イメージ写真】 改築して再生活用

○沖縄県の景観団体等状況 (H26.3 現在)

景観行政団体 … 28 団体

景観計画策定 … 18 団体、 景観条例策定 … 16 団体

③那覇空港滑走路増設

- 那覇空港滑走路増設事業については、平成26年1月に工事着手しており、現在は護岸工を進めている。
- 平成31年末に工事完了、平成32年3月末に供用開始することをめざし、引き続き事業を推進して参りたい。

○ 現況

- ・滑走路：3,000m
- ・旅客実績：（国内）1,481万人、（国際）60万人（平成24年度）
- ・主要路線：（国内）153往復/日
（平成26年5月）東京(30)、福岡(17)、中部(9)、関西(11)、
成田(10)、石垣(22)、宮古(15)等
（国際）74往復/週
台北(28)、上海(7)、香港(18)等
（貨物）57往復/週
成田(6)、上海(6)、香港(6)、広州(3)※等
（※平成26年3月5日より就航）
- ・国内LCC就航状況：ジェットスター・ジャパン（成田(3)、関西(1)）
ピーチ・アビエーション（関西(3)、石垣(1)）
バニラエア（成田(3)）

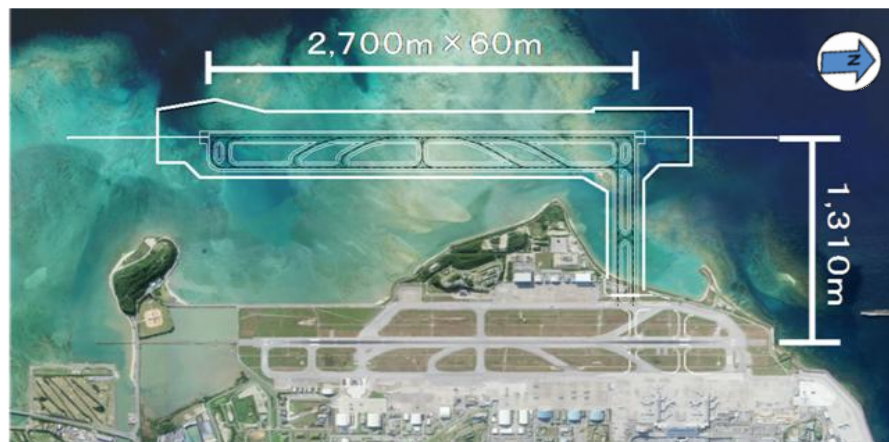
○ 平成25年度予算額：137億円（うち国費：130億円）

平成26年度予算額：347億円（うち国費：330億円）

安倍総理大臣による施政方針演説(H26.1.24)

- ・アジアと日本をつなぐゲートウェイ。それは沖縄です。
- ・アジアとの物流のハブであり、観光客を迎える玄関口として、那覇空港第二滑走路は日本の成長のために不可欠です。予定を前倒し、今月から着工いたしました。工期を短縮し、2019年度末に供用を開始します。

○ 空港整備事業の概要



・総事業費：約1,993億円

那覇空港位置図



○ スケジュール

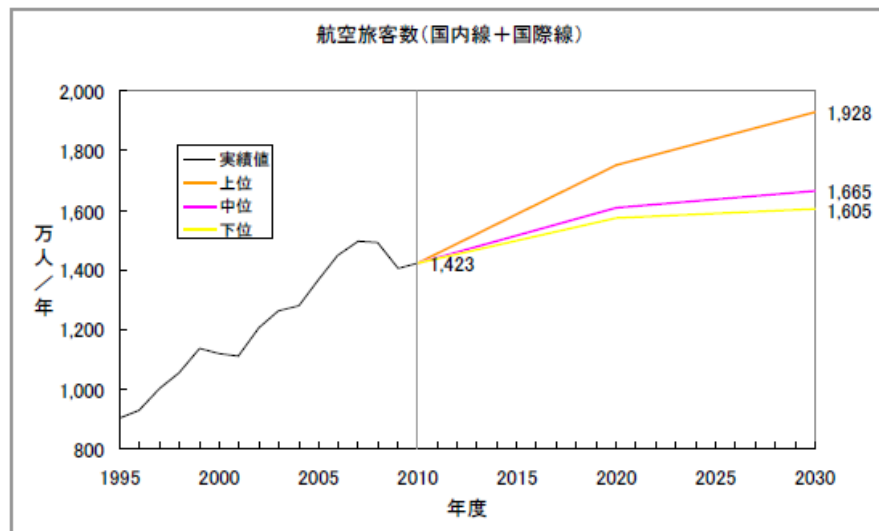
平成26年 1月	工事着手
平成31年 12月	工事の完了（予定）
平成32年 3月31日	供用開始（予定）

③滑走路増設による効果

- 那覇空港における将来の航空需要は、今後も増加することが見込まれており、滑走路増設により将来の航空需要に適切に対応することができる。
- ピーク時間帯に慢性的に発生している航空機遅延の緩和等、現状の運用上の問題点が解決できる。

■那覇空港における将来の需要予測結果

	旅客数(万人/年)		
	国内	国際	合計
2020年度	1,536 1,506~1,670	70.8 69.1~78.9	1,606 1,575~1,748
2030年度	1,567 1,511~1,811	97.9 93.8~117.7	1,665 1,605~1,928



(注)・中位ケース:国土交通省「将来交通需要推計の改善について【中間取りまとめ】」(平成22年8月)の設定を採用。

・上位・下位ケース:内閣府「中長期の道ゆきを考えるための機械的試算(2009年6月)」における底ばいケース・急回復ケースを採用。

■那覇空港における運用上の問題点の解決

- ①ピーク時間帯に慢性的に発生している
航空機の遅延が緩和される



離陸許可待ちの出発機で混雑する状況

- ②滑走路上でのトラブル発生時も航空機運航継続可能に

・滑走路が1本の場合、トラブル発生時において復旧作業・点検作業等の間は、全ての離発着をストップさせなければならない。

→滑走路増設により、一方を供用しながら他方で復旧作業が可能に

- ③滑走路のメンテナンス時間を確保可能に

・深夜貨物便の就航、自衛隊機のスクランブル、急患輸送機の発着等のため、夜間であっても航空機が離着陸できることが必要であり、メンテナンス時間に厳しい制約がある。

【現状メンテナンス時間】(月～土曜)23:00～1:30 (日曜)23:00～6:30 18

→滑走路増設により、一方を供用しながら他方のメンテナンスが可能に

③那覇空港の就航路線

- 沖縄県外の空港との間に23路線が就航。
- 沖縄県内の拠点となっており、県内の離島との間に7路線が就航。

<国内線>

就航先(県外)

- ・23路線 111往復／日 (平成26年5月時点)
 ～東京、～福岡、～関西、～中部 等
 ※平成24年よりLCC(3社)が就航

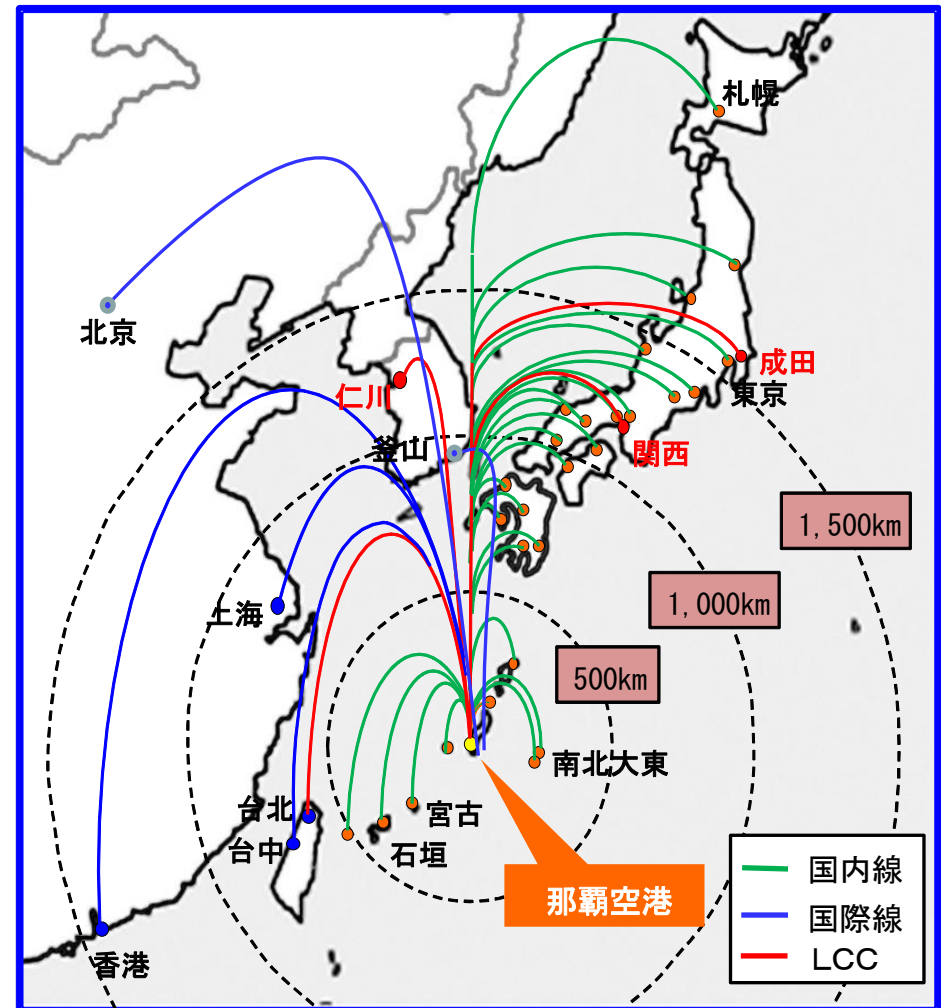
就航先(県内)

- ・6路線 47往復／日 (平成26年5月時点)
 ～石垣、～宮古、～久米島 等

<国際線>

就航先

- ・7路線 81往復／週 (平成26年5月時点)
 ～香港 (平成24年4月 増便)
 ～台北 (平成25年9月 増便)
 ～仁川 (平成24年12月 増便)
 ～上海 (平成25年3月 減便)
 ～台中 (平成25年6月 増便)
 ～北京 (平成25年7月 再開)
 ～釜山 (平成25年12月 増便)

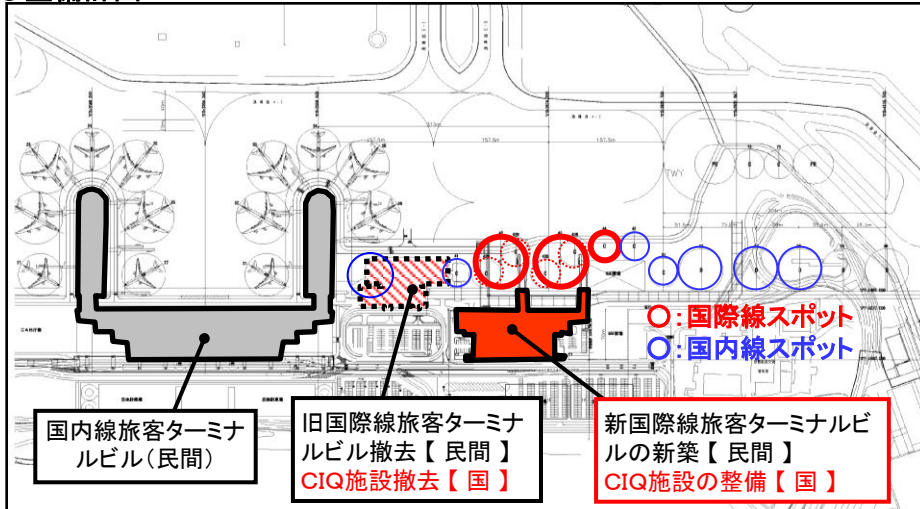


那覇空港 国際線ターミナル地域再編事業

- ◆国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化(国際航空旅客数、老朽化(整備後約30年経過))に対応するため、国際線ターミナル地域再編整備を平成21年度より実施、国際線スポットを3バース(うち固定スポット2)に拡張。
- ◆国及び民間で整備する新国際線旅客ターミナルビルは、平成26年2月17日に供用。
- ◆新国際線旅客ターミナルビルは旧ターミナルビルの約3.6倍の広さ(延床23,450㎡)。地上4階建てでボーディング・ブリッジ4基を備えており、旧ターミナルビルと比べ乗降にかかる時間を短縮させ、旅客利便性を向上させることができる。



●整備計画



③沖縄観光の状況(新石垣島空港の開港と注目される石垣島)

- ニューヨークタイムズが発表した「世界で行くべき52カ所」に石垣島が18位、アジアで3位、日本では1位。
- 2011年には沖縄県が39位に入っている。
- 平成25年度 新石垣空港乗降客200万人突破。

The New York Times

52 Places to Go in 2014
Witness a city in transformation, glimpse exotic animals, explore the past and enjoy that beach before the crowds. JAN. 10, 2014
A surfer checks the waves on Ishigaki. Ko Sasaki for The New York Times

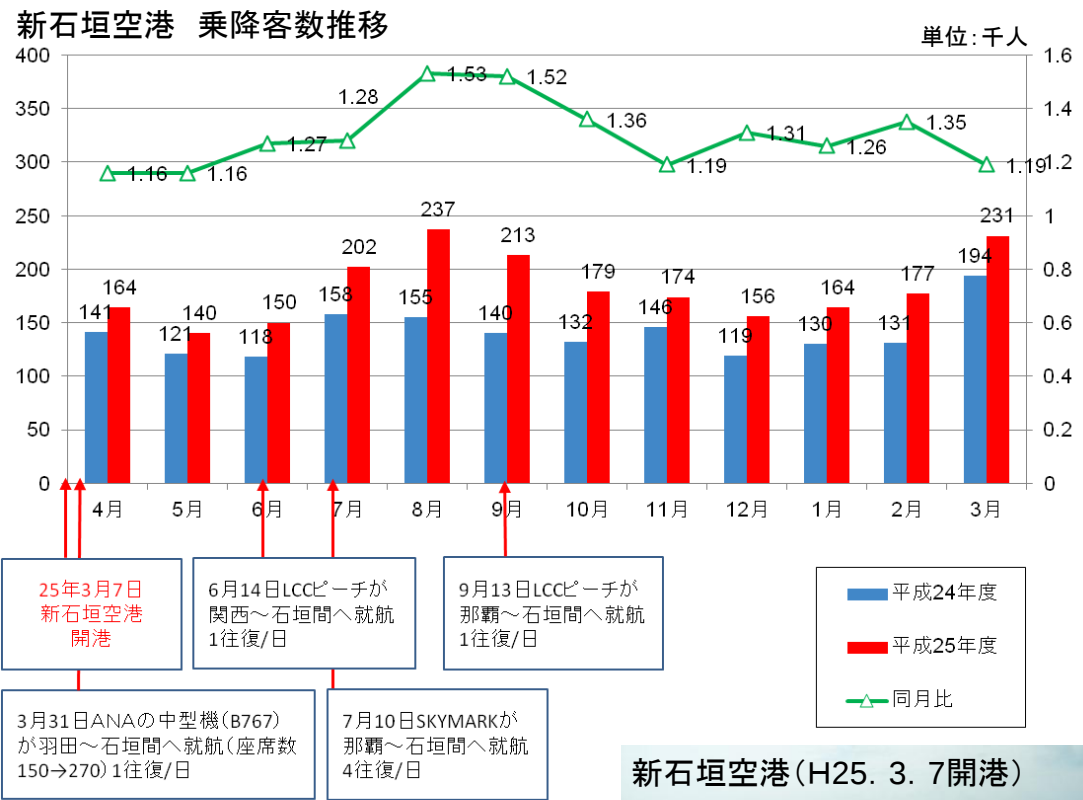
18. Ishigaki, Japan

Sand and surf, now a (low-cost) hop from Osaka.

The yen is the weakest it's been against the dollar in years — down 25 percent from a year ago — putting Japan more within reach in 2014. For low prices coupled with laid-back attitudes, look way south to the island of *Ishigaki*, 250 miles south of Okinawa Island and far from the bustle of Tokyo. The 85-square-mile island, largely undiscovered, is home to sunburned surfers, sandy beaches and beautiful coral reefs. And it's never been easier to reach: A new airport opened here in March 2013, and Japan's new low-cost carrier, *Peach*, just began service from Osaka.
— INGRID K. WILLIAMS



2014 年(平成26年) 1月10日(金)
ニューヨークタイムズ



(参考)
2014年行くべき52カ所(1位から18位)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. ケープタウン | 11. 台湾 |
| 2. クライストチャーチ | 12. ドイツのフランクフルト |
| 3. カリフォルニア北海岸 | 13. エチオピアのアジスアベバ |
| 4. アルバニアの海岸線 | 14. ブラジルのフォルタレザ/ロニャ |
| 5. ロサンゼルスダウンタウン | 15. テネシー州のナッシュビル |
| 6. ナミビア | 16. スコットランド |
| 7. エクアドル | 17. アルバータ州のカルガリー |
| 8. ベトナムのクアンビン | 18. 石垣島 |
| 9. オーストラリアのバース | |
| 10. オランダのロッテルダム | |

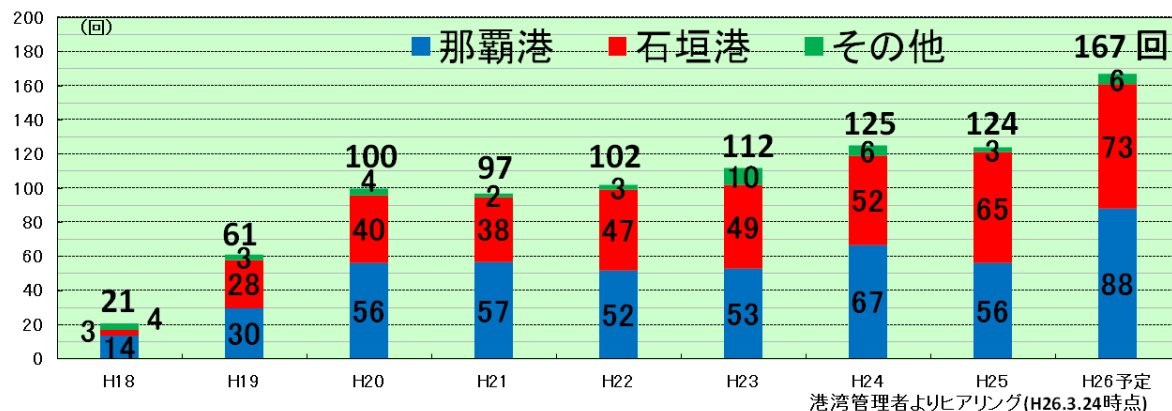
新石垣空港(H25. 3. 7開港)



③那覇港旅客船ターミナル

- 沖縄県の自立型経済を構築するためのリーディング産業の1つとして観光産業が位置付けられており、その観光産業を支援する旅客船ターミナルの整備を那覇港及び石垣港で推進している。
- 平成26年の沖縄へのクルーズ船の寄港は167回を予定されており、そのうち那覇港は88回、石垣港は73回と両港ともに過去最高の寄港見通し。

【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



【クルーズ船寄港の経済効果】

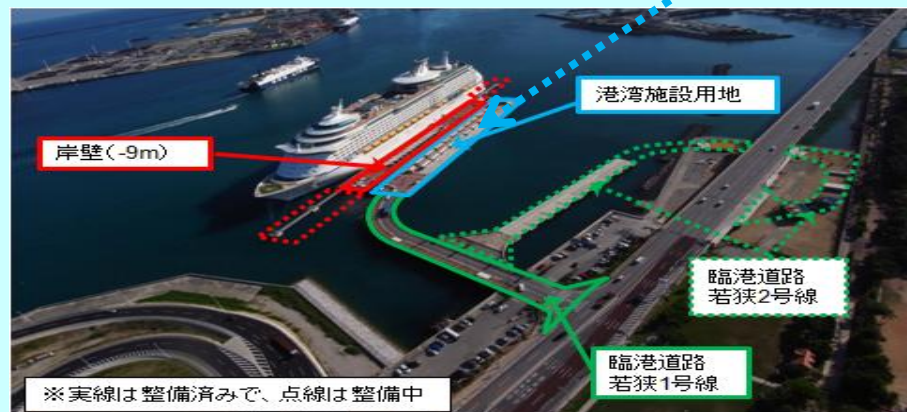
上海からの旅客船の場合は1寄港当たり約1.4億円の直接的経済効果
(H24沖総局調査での推計結果)

【那覇港における取り組み(沖縄総合事務局)】

- ◆クルーズ船の寄港増やクルーズ船の大型化に対応
 - ・旅客船ターミナル暫定供用(H21.9)
 - 着実な整備を背景に供用前H20の56回からH26は88回と大幅増加
 - ・岸壁拡張整備(210m→340m)
 - 岸壁を130m延伸し、大型バス20台の駐車スペースを新たに確保
- ◆クルーズ客の利便性が向上
 - ・アクセス道路(臨港道路若狭2号線)を新たに整備(H26.夏頃供用)
 - 市街地へのアクセス時間が20分短縮(25分→5分)

【那覇港における取り組み(那覇港管理組合)】

- ◆クルーズ客の利便性が向上
 - ・CIQ(税関、出入国管理、検疫)設備を備えたターミナルビルの供用により施設内での入国審査が可能(H26年4月供用開始)
 - ・ターミナルビルからクルーズ船へ直接、乗降できるボーディングブリッジ(搭乗橋)を整備(H26年8月頃供用)



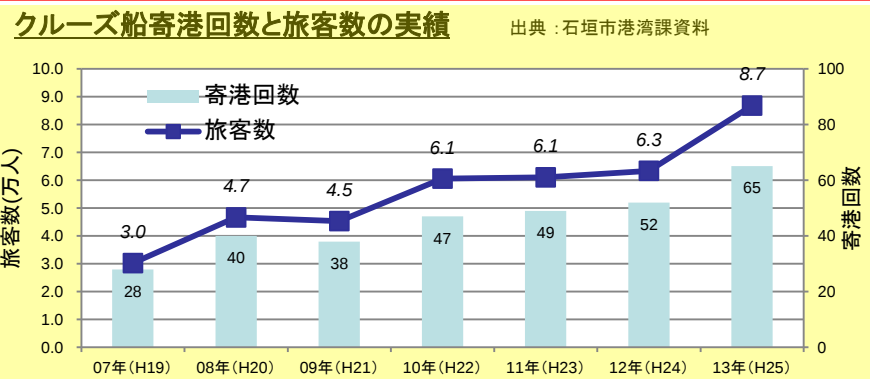
③那覇港へのクルーズ船の2隻寄港

- 平成26年は那覇港へのクルーズ船寄港は88回予定(平成25年は56回)されており、**過去最高**になる見通し。
- 2隻同時寄港の際は、1隻は新港ふ頭地区の貨物バースを利用せざるを得ず、利用者に不便を強いている。



③石垣港における旅客船ターミナルの整備

- 石垣港へのクルーズ船の年間の寄港回数は平成20年に40回から平成25年には65回と増加しており、クルーズ船が主に利用できる施設がないことから、新たに新港地区では旅客船ターミナルの整備を進めている。
- 今後もアジアからのクルーズ船の寄港増加や大型化は続く見込みで、平成30年代後半には95回寄港を想定。
- さらなるクルーズ需要に対応するため、クルーズ旅客船岸壁を平成25年港湾計画改訂で2バース位置付け。



旅客船ふ頭計画

■1バース目 水深9m 延長340m岸壁(整備中)

➤新たに新港地区に旅客船ターミナルを整備することにより、貨物と観光客の輻輳を解消。(現在、クルーズ船が着岸する浜崎町の岸壁は貨物船と同じ施設を利用している。)

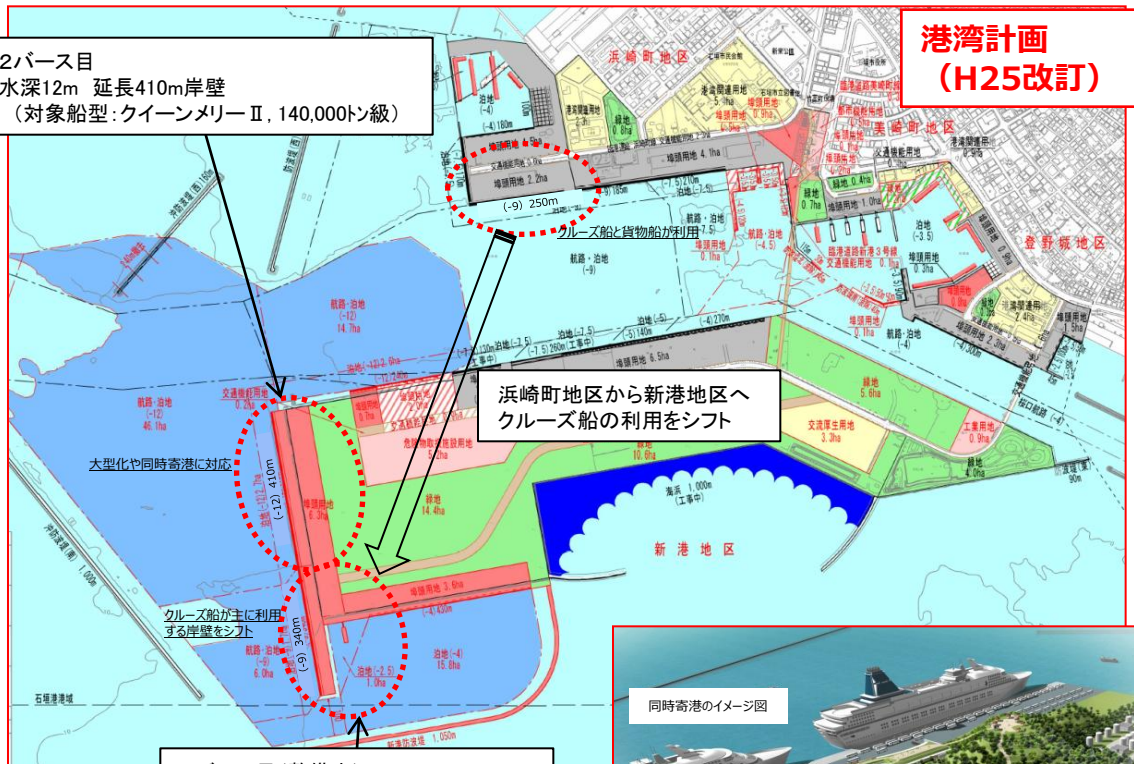


【浜崎町】現在のクルーズ船係留状況 貨物の利用に伴う貨客の混在

■2バース目 水深12m 延長410m岸壁

➤アジア域内のクルーズ需要増大をうけ、平成30年代後半には95回/年(バッキング隻数21回)と予測、今後も成長が期待される。

➤クルーズ船のバッキングにより、石垣港が抜港された場合、訪日外国人による観光収益等の外貨獲得機会を逸することとなるため、約7億円(= 21隻 × 32百万円/隻(※H24沖総局調査))の経済損失が生じると試算。



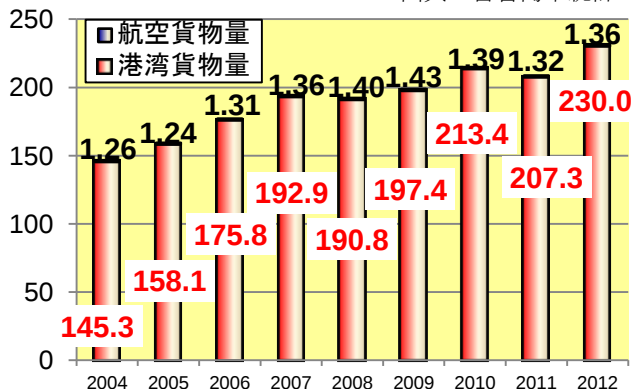
- ◆観光バスやタクシーの駐車場やCIQ設備を備えたターミナルなど背後用地の確保
- ◆クルーズ船から周辺離島へ向かう小型旅客24船に乗り継ぐための棧橋設置

内閣府

沖縄総合事務局

■全取扱貨物量の推移

単位:万トン
出典:宮古島市統計



The photograph shows a supermarket aisle with several empty shelves. Price tags are attached to the shelves, displaying various prices and discounts. The shelves are mostly empty, with some products visible on the top shelf. The price tags show a variety of prices, including 168, 103, 228, 238, 108, 108, 98, 98, 98, 238, 228, 228, 238, 228, 258, 258, 198, 238, 99, 99, 228, 198, 178, 178, 158, 86, 99, 238, 120.

市内の大型スーパーでは、賞味期限の短い牛乳などの乳製品や乾菜などの品切れ相次ぎ、島外から運入れられる、と数日間入荷しないところへの陳列棚は、とどろき音が響いた。

あつたスーパーによると「乳製品とパン、納豆、豆腐などが品切れと

牛乳、パンなど品切れ
台風9号影響
市内スーパーやコンビニ

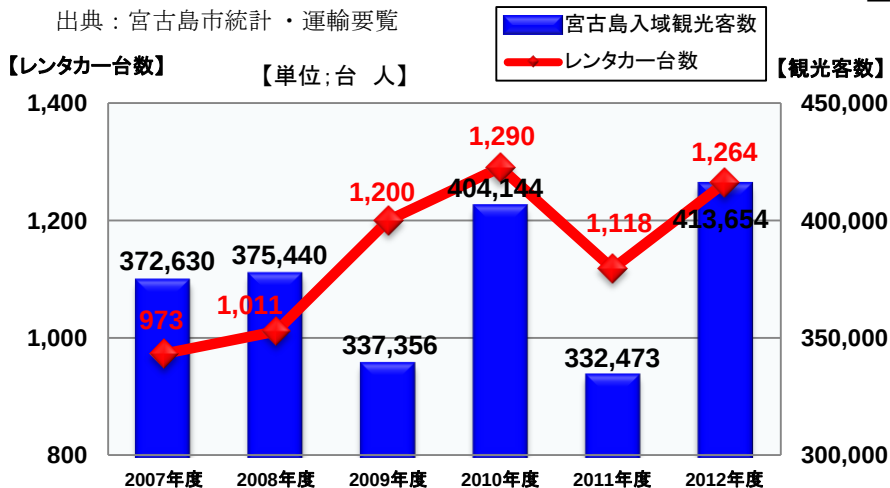


台風9号の影響で牛乳や乳製品などの商品が品切れ状態となっている＝6日、市内の大型スーパー

宮古毎日新聞 2011年8月7日(日) 日刊11面

■入域観光客数とレンタカー登録台数の推移

出典：宮古島市統計・運輸要覧



■平良港漲水地区に積降ろされた多くのレンタカー



過去最高の41万人達成



宮古毎日新聞 2013年4月6日

③竹富南航路の整備

- 竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と小浜島、黒島等の周辺の島々を結ぶ唯一の航路である。住民の生活航路として、また観光航路として重要な役割を果たしている。
- 当該海域は浅瀬が多く日中のみの運航に制限されており、地域住民や来訪者が利用する船舶航行の安全を確保する必要がある。
- 国内でも有数のサンゴ礁海域である石西礁湖に位置するため、環境へ配慮した取り組みを行っている。

【竹富南航路】住民の生活航路、観光航路として島々を結ぶ唯一の航路



- 安全確保: 策定ルール例
漁業と高速船等の輻輳を回避するため、高速船等の航行自粛(赤ライン)、漁業の操業自粛(黄ライン)をルール化。



【環境への配慮】

航路路浚渫に伴うサンゴ移設と環境省が取り組むサンゴ群集の修復を連携して実施。

サンゴ群集300平方メートル移設

竹富南航路工事
石垣港湾と環境事務所
周辺のサンゴ礁回復も期待

沖縄総合事務局・環境省合同実施区域

竹富島

石垣港湾と環境事務所

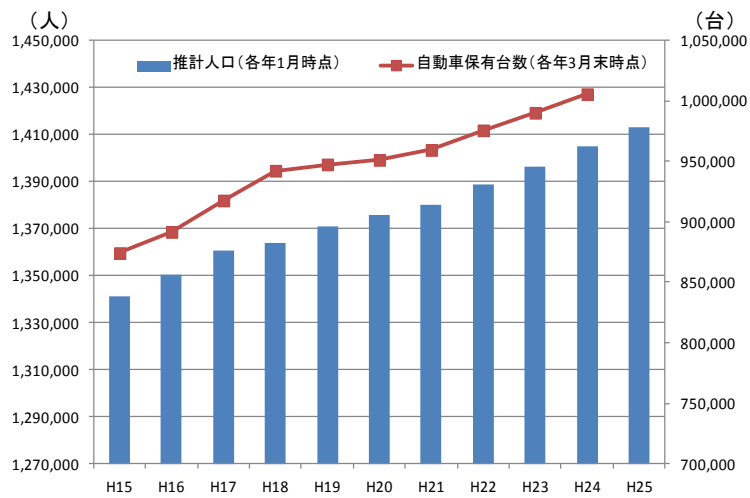
周辺のサンゴ礁回復も期待

平成23年2月9日より実施中

③沖縄の道路交通の現状（1）

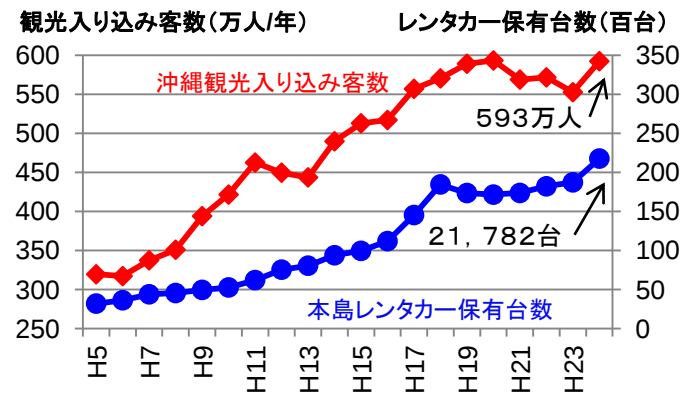
- 人口・自動車数の増加に伴い、容量不足のため交通混雑が顕在化（那覇市内は全国ワースト1）。
- 観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



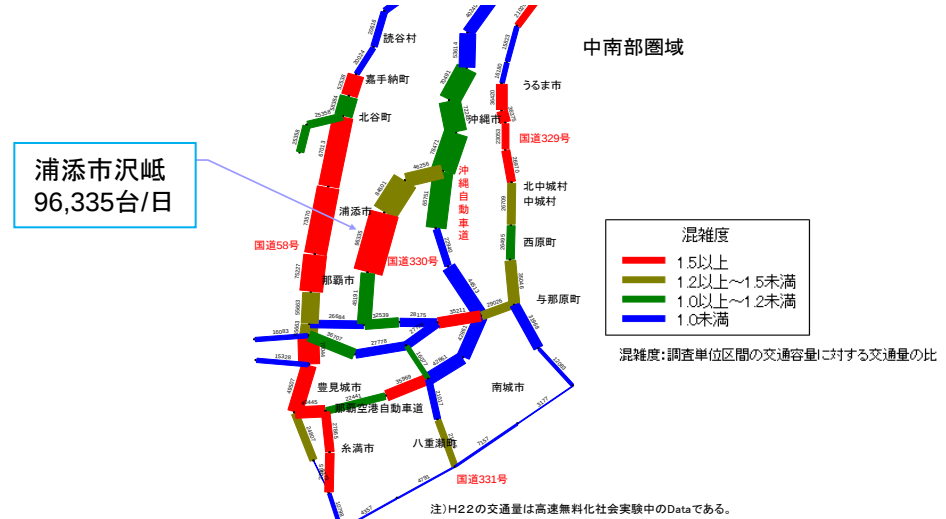
【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

◆観光客の移動手段はレンタカー



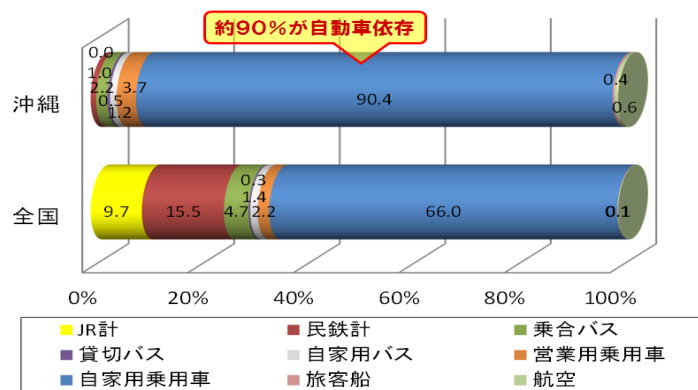
【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】
（データ：H24沖縄県運輸要覧）

◆中南部県域の主要幹線は容量オーバー



【H22年度区間別交通量図】

◆過度な自動車依存

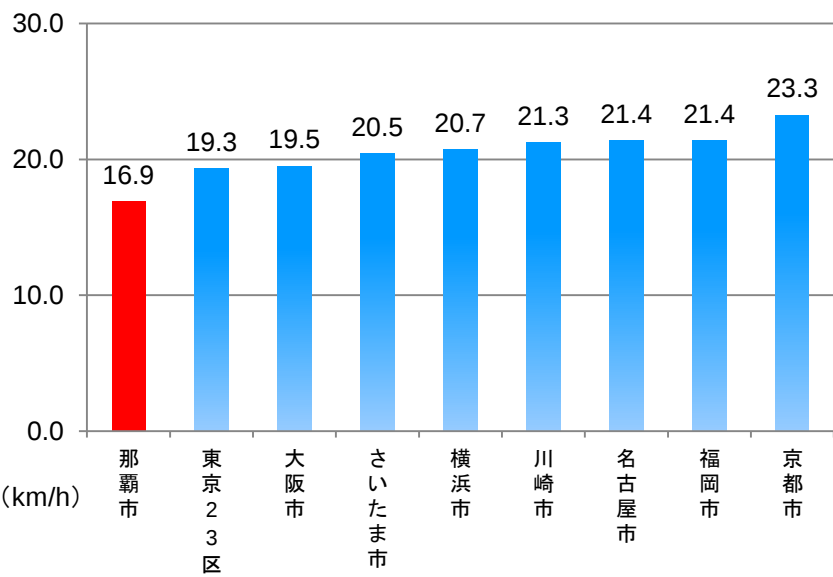


【交通手段分担率（沖縄・全国）】

（データ：H21国交省旅客地域流動調査）

③沖縄の道路交通の現状 (2)

◆那覇市内の速度は全国ワースト1



【平日混雑時平均旅行速度の比較】
(データ: H24プロブデータ)



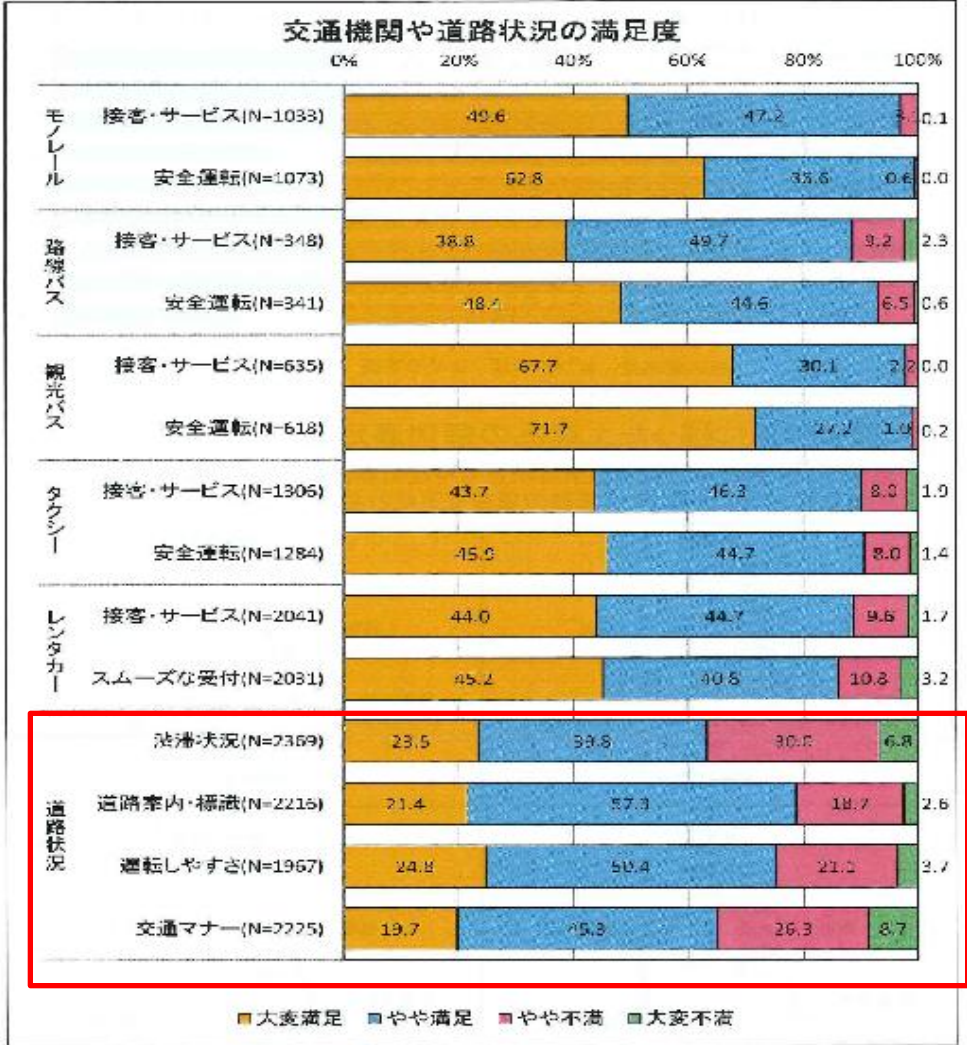
R58号 浦添市牧港



R58号 那覇市前島

◆ 交通機関や道路状況の満足度

➢ 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
➢ 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。



出典: 沖縄観光の満足度 (平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

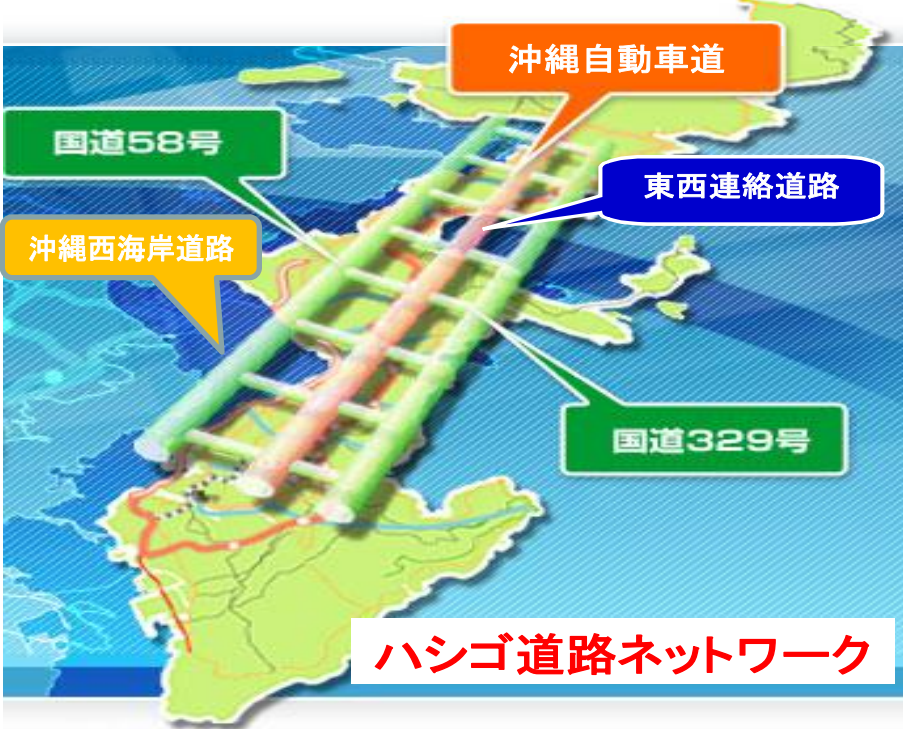
③道路ネットワーク【ハシゴ道路・2環状7放射道路】

- 道路ネットワーク整備による道路交通円滑化、利便性向上。
- 沖縄本島を縦横に結ぶ幹線道路ネットワークを構築する「ハシゴ道路」の整備。
- 那覇都市圏の交通円滑化を図る「2環状7放射道路」の整備。

＜幹線道路ネットワークの構築＞

『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

- 南北を走る強固な「3本の柱」
- 柱を支える「東西連絡道路」
- 高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」

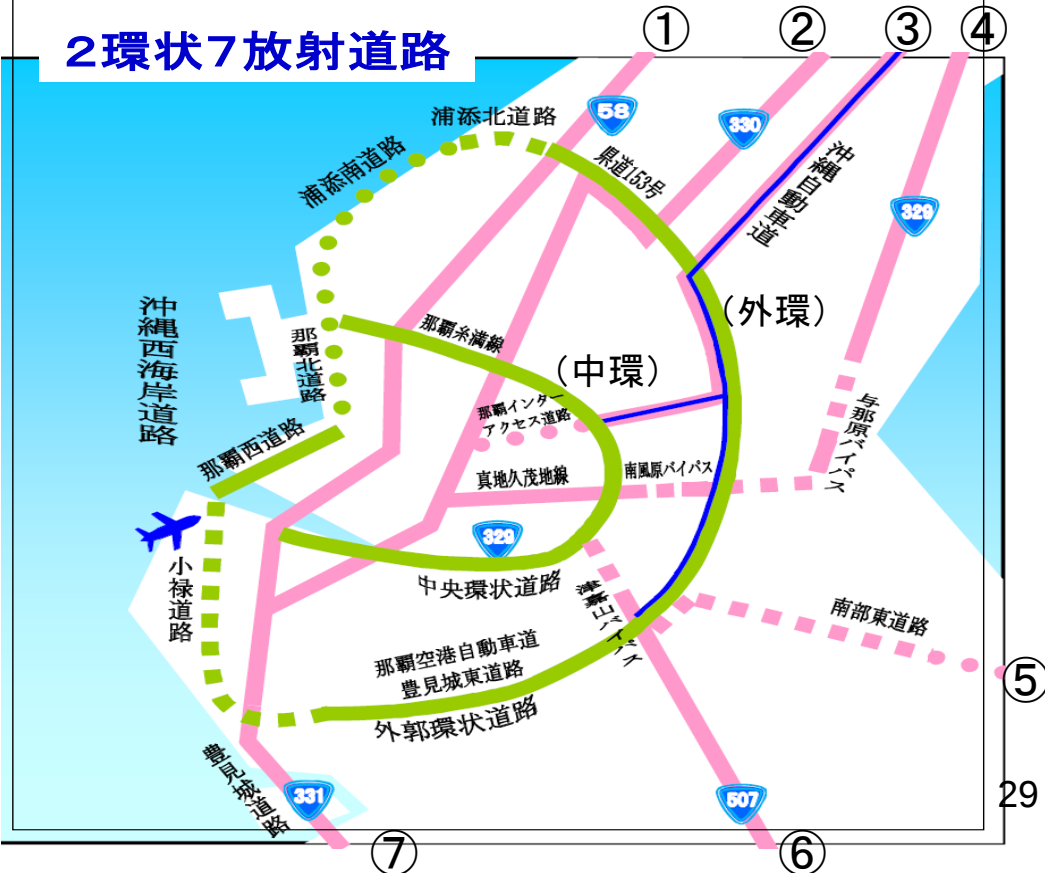


＜那覇都市圏の交通円滑化＞

『2環状7放射道路』の整備

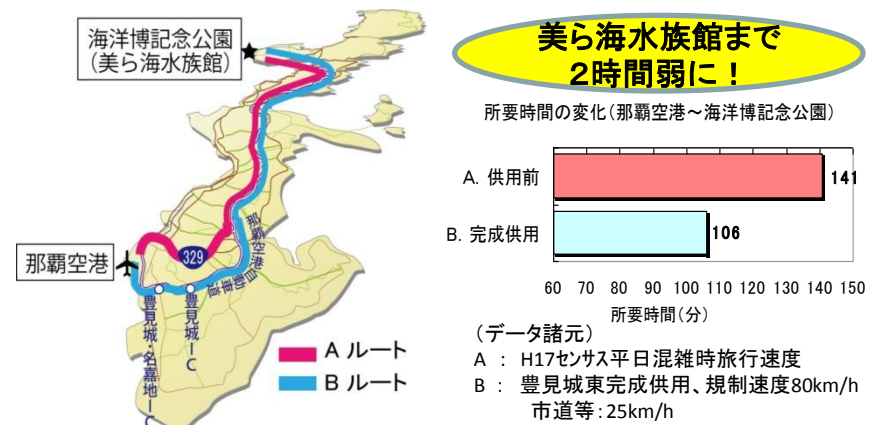
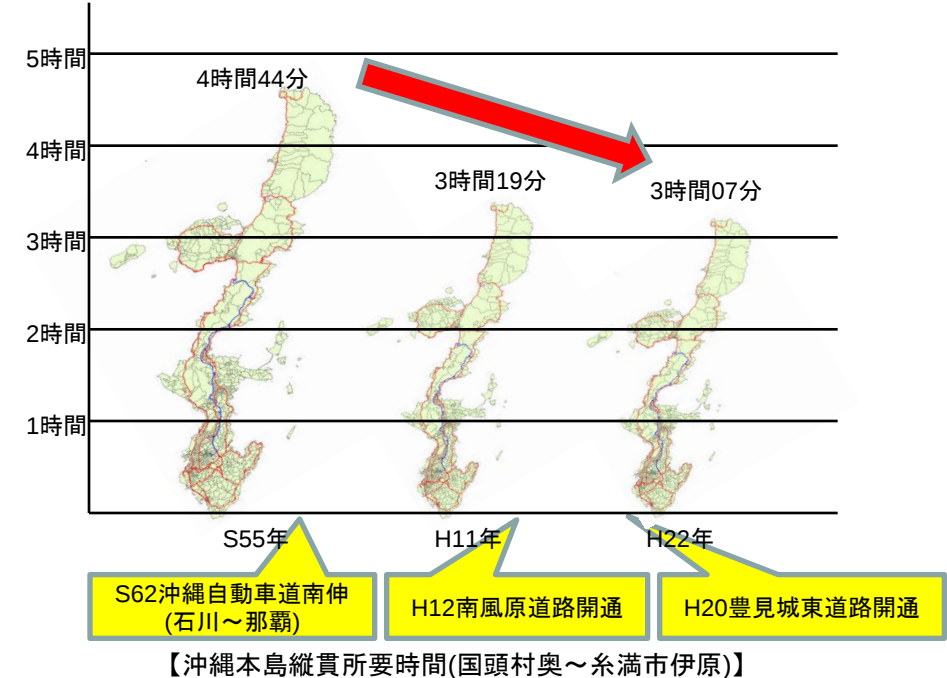
- 環状・放射道路を整備することにより、交通経路の分散を図り、スムーズな交通の流れを促す

2環状7放射道路



③観光振興を支援する道路整備

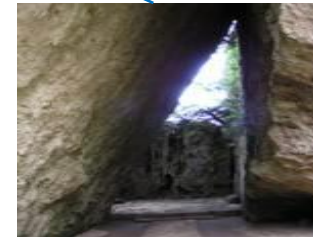
- 道路ネットワーク整備により、沖縄本島北端から南端までの所要時間が短縮し、観光振興にも寄与。
- 沖縄の玄関である那覇空港からの時間距離が短縮し、行動範囲が拡大。
- 渋滞が緩和し、スムーズに観光地巡りが可能に。



【ひめゆりの塔】



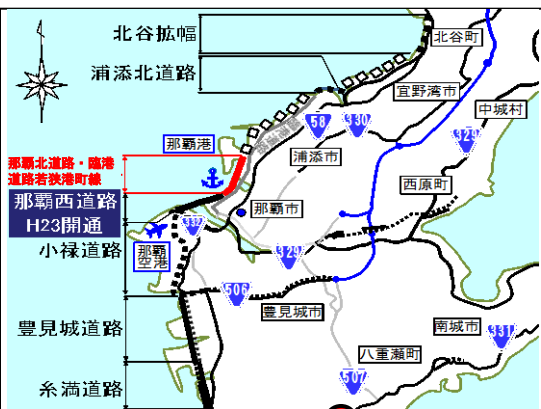
【平和記念公園】



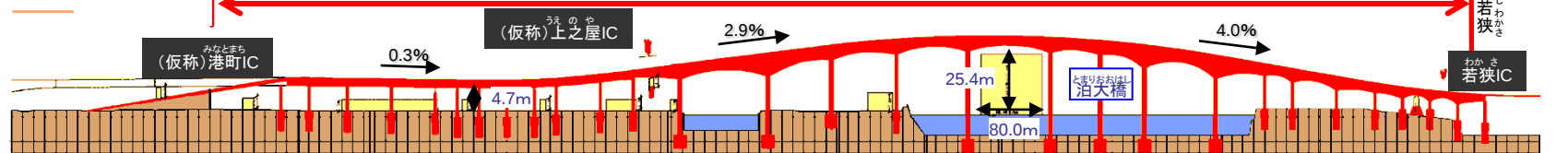
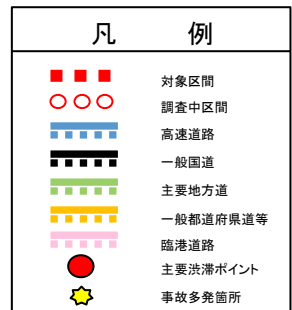
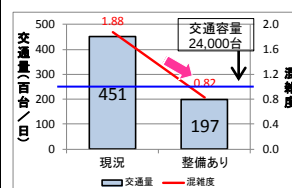
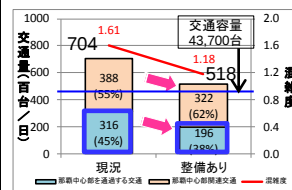
【斎場御嶽】

③那覇北道路・臨港道路若狭港町線

沖縄県の県都であり、産業の中心である那覇市において、交通容量を大幅に上回る約7万5千台の交通が集中する国道58号や臨港道路の著しい渋滞を解消し、市街地の一般交通及び那覇港の港湾関連交通の円滑な動線を確保するため、道路と港湾との共同事業による早期整備をめざす。



国道58号・臨港道路の交通が那覇北道路へ転換し、渋滞緩和が図られる。



1. 現地実証実験(社会実験)

- 道路に関する先進的または斬新な施策について、当該施策を本格実施するにあたり、現地で市民等の参加のもと、効果や影響を確認するため、場所と期間を限定して試行・評価する現地実証実験の公募を毎年行なっています。
- 社会実験を活用した「那覇市国際通りトランジットモール」は、平成19年2月から本格実施しています。
- 実験内容や申請等に関する事前相談・問い合わせを随時受け付けております。

2. 社会実験を活用した実施例

【那覇市国際通りにおけるトランジットモール社会実験 本格実施例】



※トランジットモールとは・・・自家用車の通行を制限し、バスなどの公共交通機関の進入のみを許可した形態の歩行者道路(モール)を指すものです。

3. 社会実験のお問い合わせ

【公募時期】

応募案件登録 毎年 3月末～4月末

【相談窓口】

沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 大城・城間 TEL:098-866-1914

※詳しくは <http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>

<参考>社会実験を活用した課題の解決イメージ

パーク&ライドを用いた観光地の渋滞解消に関する社会実験(事例)



地域の課題把握と対応策(案)の立案

- ・地域の課題
観光シーズンに〇〇交差点～〇〇温泉まで区間が渋滞(所要時間〇〇分)
- ・課題解決のための対応策(案)の立案
〇〇地区への自動車流入規制、パーク&ライドの実施

対応策(案)の評価

- ・施策の具体化による対応策(案)の評価
対象エリア、巡回バスの運行本数、駐車場の必要台数等を検討し評価

実現可能性の評価

- ・対応策(案)の実現可能性の評価
パーク&ライドの実現可能性について、制度、予算等から評価
- ・社会実験により検証が必要な項目、目標値の検討
観光シーズンの〇〇交差点～〇〇温泉までの所要時間が〇〇分以内、ピーク時の自動車交通量〇割削減、地域住民や利用者の満足度

- ・社会実験による実現可能性の検証、評価
パーク&ライドを試行、検証が必要な項目、目標値の確認、課題抽出
- ・施策への反映
社会実験の成功したポイント、失敗したポイントを、施策に反映

社会実験の実施

本格実施

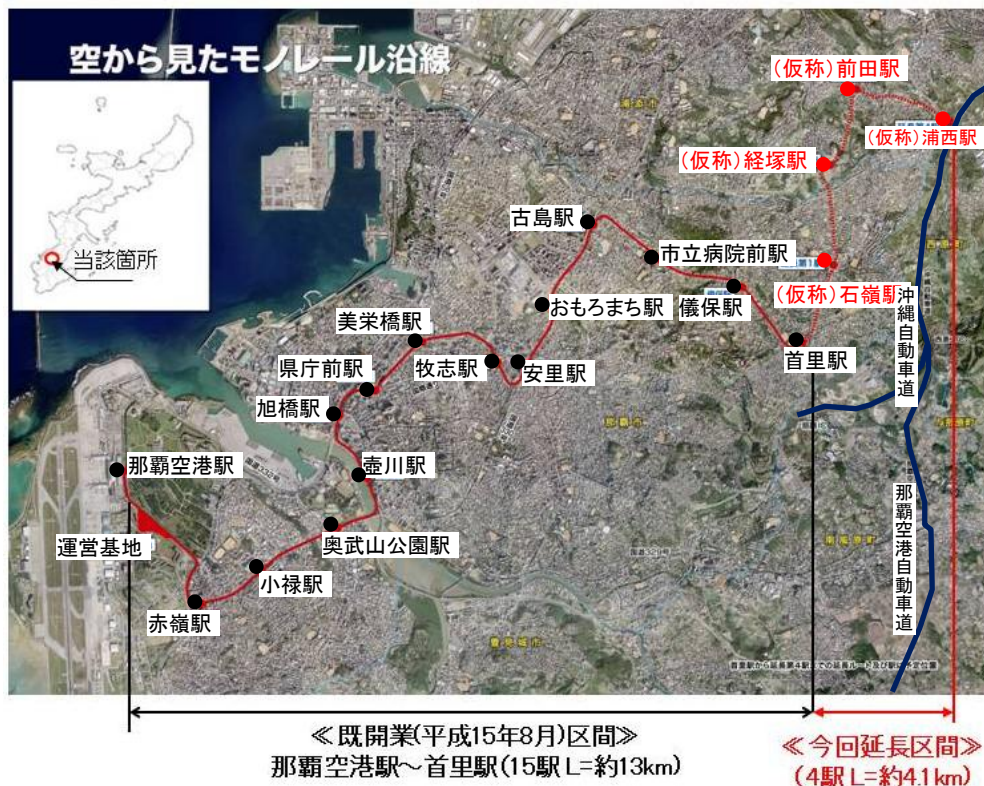
- ・施策の改善、本格実施 パーク&ライドを本格導入

③沖縄都市モノレールの延伸

沖縄都市モノレールを現在の終点である首里駅から沖縄自動車道(西原入口)まで整備し、高速道路と結節する事で、沖縄本島を縦断する公共交通基幹軸を形成する。

○自動車交通からモノレール等公共交通への交通手段転換を促進し、那覇都市圏の交通渋滞緩和及び沖縄本島中北部から那覇都市圏へのアクセス性向上を図る。

○延伸によるモノレールのさらなる利用拡大、これに併せた集約型市街地形成と交通施策を重点的、総合的に進める。



延伸区間概要:

- 事業期間:平成21年度～平成30年度
- 延伸区間:首里駅～浦西駅(仮称)4.1km
- 駅数:4駅
- 事業費:約350億円(インフラ+インフラ外)
- 所要時分:片道約38分(全線) ※現在15駅27分

高速バスとゆいレールで中北部の方々の移動時間も短縮できます。

ゆいレール沿線の方はもちろん、高速バスとゆいレールを効果的に利用することで、中北部の方々の移動の時間も短縮され時間を有効に活用できるようになります。

例 名護市 ↓ 那覇市	高速バス+ゆいレール		98分
	自動車(一般道路)		115分
	路線バス(一般道路)		140分
例 沖縄市 ↓ 那覇市	高速バス+ゆいレール		42分
	自動車(一般道路)		75分
	路線バス(一般道路)		76分



③ 駐車場等の整備

都市再生整備計画事業

○駐車場有効利用システム：駐車場利用車両を適切に駐車場に案内し既存の駐車場ストックの有効利用を促進する事により、整備区域周辺における路上駐車による道路交通の阻害の解消、利用者の利便性向上などを図り、道路交通の円滑化と市街地の活性化に資する。

○地域生活基盤施設（駐車場）：1地区あたり概ね500台の整備に要する費用を限度に、平面でも立体でも整備可能。また、必ずしも道路区域である必要がなく有料駐車場とすることも可能ですが、料金設定は周辺の駐車場の料金水準から見て妥当なものであることが必要。

都市・地域交通戦略推進事業

都市交通の円滑化を図るとともに都市施設整備や土地利用の再編による都市再生を推進する為、徒歩、自転車、公共交通など多様なモードの連携が図られた、自由通路、地下街、駐車場等の公共空間や公共交通からなる都市の交通施設の整備。

○駐車場の整備 ○駐車場有効利用システムの整備 ○荷捌き駐車場の整備 ○自転車駐車場の整備 等



駐車場案内板(沖縄市)



古島駅P&R(那覇市)



小禄駅P&R(那覇市)



安里駅P&R(那覇市)



荷捌き駐車場



駐輪場整備(那覇市)

④観光情報満載の「道の駅」

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○観光案内

- ・観光案内人が常駐し、北部12市町村の観光名所、祭り等を情報提供（「道の駅」許田）



○離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供（「道の駅」豊崎）

離発着情報提供

便名	出発地	定刻	変更	備考	到着
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中	08:58
1762	石垣	09:05	08:57		08:57
872	久米島	09:15	09:02		09:02
511	東京	09:20	09:50		09:50
51	福岡	09:35	09:23		09:23
552	宮古	09:40	09:36		09:36
133	成田	09:40	09:25		09:25
600	石垣	09:45	09:43		09:43



○道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載（各駅）



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問（「道の駅」かでな）

嘉手納基地



道の駅の展望台

- 「道の駅」は、震災時には、防災拠点、唯一の販売所として活躍。
- EV充電器、無線LAN、外国人旅行者への案内など、新たなニーズ対応による進化の可能性。

○地域防災計画(防災活動拠点)に位置づけて「道の駅」を防災拠点化



現状

(津波が来ても活動できるように2階に防災拠点施設を整備)
(「道の駅」いとまん)



防災拠点施設

イメージ



支援物資集積所

(災害時に支援物資の集積所として活用)
(「道の駅」許田)



(道路規制情報・被災情報の提供) (災害時に飲料水利用可能貯水槽) (非常用自家発電機)

(緊急避難階段)

(一時避難所)

○新たなニーズへの対応



(無線LAN)



(EV充電器)



(太陽光発電)



(外国人旅行者への案内)

 内閣府 沖縄総合事務局

○アシナビー

北部国道事務所HP又は道の駅で配布しています。
<http://www.dc.ogb.go.jp/hokkoku/asinavi/index.html>

○北部ダム統合管理事務所広報誌

※ 本広報誌は、本事務所：「とうかん」、福地ダム管理支所：「天水がめ」、安波ダム管理支所：「国頭銘水」、漢那ダム管理支所：「てんぶす」、羽地ダム管理支所：「羽地あけみおだより」を毎月交互に発刊しています。

一般の方々などのダム管理への理解促進及び地元関係者との情報交換を一層深めていただくことを目的に、ダム管理に関する情報、ダムを活用したイベント情報、ダム所在市町村のイベント情報などを毎月、北部ダム統合管理事務所HP、メルマガ等で発信しています。

北部ダム統合管理事務所HP
<http://www.dc.ogb.go.jp/toukan/>

○湖水友の会

会員登録された皆様にダム管理に関する情報や各種イベントの案内などを行い、ダム管理に対する一般の方々の理解促進及び水源地域の活性化を図ることを目的に、随時メルマガを発信しています。

会員登録はこちらから →



又は北部ダム統合管理事務所HPからも会員登録できます。
<http://www.dc.ogb.go.jp/toukan/>

[illegible]

北都ダム統合管理事務所広報誌(15月号) 2014年5月1日発行

北都ダム統合管理事務所 羽地ダム管理支所

TEL 0980-63-6411 FAX 0980-62-6412
FAX 0980-63-6413
〒980-0001 宮城県大崎市大船渡市羽地町1-1
北都ダム統合管理事務所管内 北都ダム統合管理支所

羽地あけみおだより

新所長の抱負

本年3月、国産橋の多目的ダムの建設を担ってきた北都ダム事務所に42年間の歴史に幕を閉じ、4月からは新たに供用開始した全農ダムを含む中ぶりのダムの管理を一手に引き受けます。今後は水源地に隣接する東部北都ダム統合管理支所と連携し(通称「水と緑」)、やがてこうとなります。引き継ぎ関係する皆様(ご来訪者)のご支援をお願いいたします。

私たちが羽地管理に与えられた任務は大きく二つあると考えています。一つは、安全な水を将来に渡り続けるために、一つは、水源地の活性化の一助となることです。

前者については、危機を回避するのためのシステムマネジメント、つまり日頃の地道な施設の点検や巡回活動、洪水発生を未然に防ぐための合理的な水使用などにより、水害の被害を軽減することと重要であり、技術的な面との関わりを深めながら進めたいと考えています。二つ目は、危機が発生した時の社会的責任を最小に抑えるために、危機管理を適切に行うことであり、職員が繰り返し訓練により危機への対応能力を身につける必要があると思っています。この2点について目標を持って計画に取り組んで取り組んでいきたいと考えています。

また、使っていくには、最も大切なことは地域の声を聴くことに、北都ダム統括としてできることを果たしていくこと、次に、ダムが地域に貢献できるように、水源地の水源地活性化に力を入れること、水と緑のふれあいの場としての役割を担い、水害による自然破壊や災害が作られたとき被害を軽減する環境光景遊歩道と活用できるような地域の方々と共に知恵を出していきたいと考えてます。併せて、中南部の各水と緑光景道の連携を図るような構想を出していきたいと考えています。このような目標を定めると、最も水と緑の大切さを国民全体で共有し水質の安全・安心、水源地の活性化に寄与していきたいと思っています。



北都ダム統合管理事務所
新所長 吉崎 隆

ダム歳の歳時記

5月12日・桜やがけが満開が水やの葉が落ちていきます
羽地ダムでは4月28日と5月4日と6月7日と6月8日とが花見に泳ぎにいきます。
ドライブや釣りに行くのに季節、羽地ダムにマンション！

平成26年4月30日現在 国産(大)ダム管理率: 62.4% (過去10年間の平均管理率72.9%)

5月の行事予定表

日(月)	開催地	行事名・名	内容
3日(木)4月	羽地ダム	ダムが地域に貢献できるように、水源地の水源地活性化に力を入れること、水と緑のふれあいの場としての役割を担い、水害による自然破壊や災害が作られたとき被害を軽減する環境光景遊歩道と活用できるような地域の方々と共に知恵を出していきたいと考えてます。	

2014年5月号

14日(水) 管理事務所
19日(月) 統合管理事務所

内閣府

沖縄総合事務局

- ## エコブロック(設置8年後)

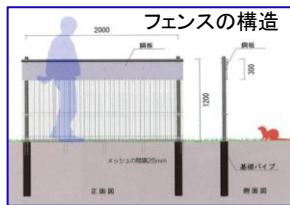
⑤沖縄の水資源開発における環境への取り組み

- ダム整備の進められた北部の水源地‘やんばる’は、絶滅危惧種に指定されるノグチゲラやヤンバルクイナ等の沖縄固有の貴重種が生息するなど、豊かな自然環境が残された貴重な環境。
- 整備にあたり、これら自然環境への配慮を行うとともに、環境の復元・創出等に努めている。

貴重種等の保全対策の実施



大保ダムでは森林がノグチゲラによる営巣可能な状態に回復するまでの「緊急避難的な措置」として「人工営巣木」を設置。



設置状況

設置延長L=4, 220m
(県:L=2, 850m、国:L=1, 370m)



マングースフェンスの設置
SF(塩屋ー福地)ライン

大保ダム事業の環境保全対策の一環として、県と連携してS-Fラインにヤンバルの森へのマングースの侵入を防除するフェンスを整備。



漢那ダム魚道



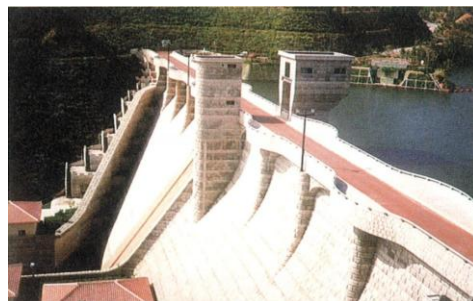
金武ダム魚道

ダムによる上下流分断の影響を低減するため甲殻類やハゼ類が遡上可能な匍匐(ほふく)型魚道を整備。

環境創出、景観配慮



漢那ダムでは湿地環境を好む生物の多様な生息環境を創出(全国に先駆けた湿地ビオトープの整備)。



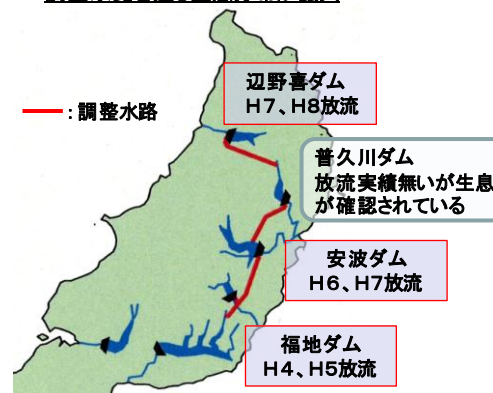
上: 漢那ダム堤体は石積み模様と曲線による設計

左: 参考にした中城の切石布積の城壁



リュウキュウアユ再生への取り組み支援

陸封型リュウキュウアユの定着・拡散
調整水路を通じ生息分布が拡大



源河川におけるアユ放流会

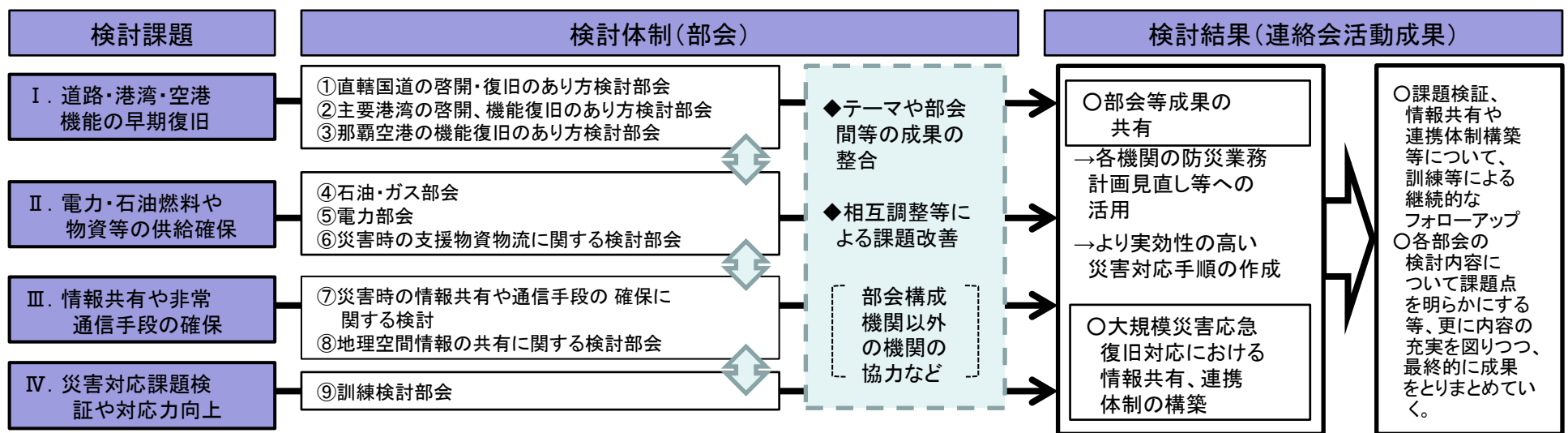
ダム湖では陸封に成功しダム湖、流入河川に定着。現在は河川での定着に向けて河川環境改善の取組を試行。

⑥ 沖縄防災連絡会

- ・沖縄地域における大規模な地震・津波災害の発生に備えて、予め関係機関が対応策を検討。
- ・特に発災直後は、島内の限られた資源のみで災害対応を行わざるを得ない状況も想定。
- ・関係行政機関、民間団体等が相互に連携・協力した迅速・的確な初動対応の実施。
- ・沖縄総合事務局の呼びかけで、沖縄防災連絡会を平成24年11月12日設立。
- ・今年度早期に、初動対応の中間とりまとめを行い公表予定。



- 【構成】
- ・30機関+3機関(オブザーバー)で構成
- 【活動内容】
- ・災害対策に関する情報、取組施策等の共有
 - ・災害対応施策の調整、連携
 - ・道路、港湾、空港啓開の在り方、情報通信機能や運輸・物流体制等の社会・産業基盤の応急復旧に関する検討
 - ・電力、石油・ガス等の燃料、要員・資機材等の諸資源の確保等に関する検討など



⑥災害時の情報交換及び応援に関する協定(リエゾン協定)締結の推進

- 国においては、自治体の公共土木施設等に災害が発生または災害が発生するおそれがある場合に、迅速且つ的確な災害対策を実施することができるよう、日頃から相互の信頼関係を構築する目的で、『災害時の情報交換及び応援に関する協定(リエゾン協定)締結』を推進しています。
- 応援する内容は………
 - ①リエゾン(情報連絡員)を協定者の災害対策本部に派遣し情報交換を行います。
 - ②災害状況を勘案し、沖縄総合事務局の所有する災害対策用資機材(防災ヘリコプター等)を派遣します。
 - ③平時においては、共同で防災訓練を行い、災害対応は迅速に実施いたします。

※ リエゾンとは:Liaison、「つなぐ」という意味のフランス語。災害時の情報交換に関する協定においては、自治体に派遣される職員を指す。

- ①リエゾンを災害対策本部へ派遣
- ②災害対策用資機材の派遣
- ③共同で防災訓練を行い迅速な災害対応



①自治体へリエゾンを派遣



②災害対策用資機材の派遣



③共同での防災訓練を実施

全国の事例:東日本大震災時の応援活動



リエゾンによる被災状況把握



排水ポンプ車による活動状況

出典:国土交通省HPより

- 沖縄県の協定締結状況(H26. 4現在)
関係自治体… 3 自治体(大宜見村、国頭村、東村)
- 今後はできるだけ多くの自治体と締結していく所存です。
- 問い合わせ先
内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 防災課 41
TEL:098-866-1903

⑥緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の概要

TEC-FORCEとは

- 国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)は、大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、被災地方公共団体等に対して、円滑かつ迅速に災害対応の支援を実施することを目的として、平成20年度に創設されました。
- 全国の地方整備局と事務所を中心に職員が隊員として任命されており、ゲリラ豪雨のような局地的な災害に対しては近傍の事務所や管内の地方整備局から、また、東日本大震災のような広域的な災害に対しては全国の地方整備局から現地へ隊員が参集します。
- ヘリコプターや排水ポンプ車、通信衛星車などの災害対策用の機材も全国に配備しており、迅速な被害状況調査や現地での応急対応が可能です。

活動内容

大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施します

目 的

大臣(災害対策本部長)の指揮命令のもと、全国の各地方整備局等が以下の活動を実施

- 被災状況の調査
- 災害緊急対応
 - ・緊急輸送路の確保
 - ・緊急湛水排除
- 被災地方自治体の支援
 - ・リエゾンの派遣
 - ・衛星通信車等の派遣による通信網確保
 - ・災害復旧に関する技術指導や助言
- 二次災害の防止
 - ・応急対策の立案・実施
 - ・被災箇所の危険度予測

事前の体制整備

- ・職員をTEC-FORCE隊員としてあらかじめ指名するなど、事前に人員・資機材の派遣体制及び受入体制を整備し、迅速な活動を実施
- ・平時に研修や訓練を行うことによる対応能力の向上
- ・活動計画や活動拠点の準備による強化

災害対策用機材の配備

- ・災害対策用機材(ヘリコプター、排水ポンプ車、照明車、衛星通信車、応急組立橋等)を全国の地方整備局や事務所に配備

活動状況



被災状況調査(現地調査)



復旧工法の検討



復旧方針樹立の指導

社会資本整備事業の見える化

- 開発建設部が進めている社会資本整備事業等の見える化(わかりやすく示す、見通しを示す、情報を共有する)のため、事業計画・工程表を作成・公表
- 事業計画において、事業内容等を示し、工程表において、目標、進捗状況、見通し等を記載
(平成26年度予算を踏まえたH26.5末現在のものであり、今後、状況の変化等に応じて随時更新する予定)
- 事業計画・工程表は、年度毎に達成状況等を確認し、目標を設定してローリング
- 対象は、道路、ダム、港湾、空港、公園、営繕、防災、その他の8つの分野
- 今後、進捗管理を徹底しながら、できるだけ工期の短縮化に努力

事業計画・工程表の構成

- ◆事業計画
 - ・概要、H26年度事業内容、位置図、ポンチ図、写真等を記載
- ◆工程表
 - H25年度の成果等
 - ・H25年度における事業等の進捗等の成果を記載
(△△供用済、▲▲促進、□□実施、など)
 - H26年度の成果目標等
 - ・H26年度における事業等の進捗等の目標を記載
(△△供用予定、▽▽新規事業化、▲▲促進、□□実施、など)
 - 事業等の見通し
 - ・供用目標等をバーチャートで表示(H25年度～H31年度以降)
(凡例は右図参照)
 - 備考
 - ・これまでの成果、全体の目標、その他の参考情報を記載

凡例等

H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降
[実線矢印]		H26年度供用予定				
[点線矢印]		早期供用予定／供用時期未定(※)				
[点線矢印]			H27年度暫定供用予定			
[点線矢印]						供用時期未定(※)
[実線矢印]						
						経年事業等

(※) 供用時期未定事業等については、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定

変更要因

- 事業等の見通しは、標準的な工程を想定した場合の目安。今後の予算状況や施工上の条件変化等により変更の可能性がある。
(例) 用地取得時における土地所有者調査・関係者調整の長期化、地元調整や環境配慮等のための工程調整、関係機関・隣接事業との調整、など

社会資本整備事業の見える化

工程表の凡例

H25年度における事業等の進捗等の成果を記載

H26年度における事業等の進捗等の目標を記載

供用目標等をバーチャートで表示（H25年度～H31年度）

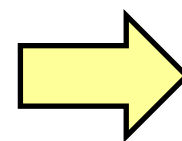
これまでの成果、全体の目標、その他の参考情報を記載

区分	事業名	H25年度の成果等	H26年度の成果目標等	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
那覇空港自動車道	一般国道506号豊見城東道路 L=6.2km	・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(4/4) 平成26年3月31日 開通済 ・(東風平地区)舗装工、設備工、付帯工 ・豊見城高架橋上部工	・豊見城・名嘉地IC～豊見城IC L=2.7km(4/4)平成26年度 開通予定 ・(上田地区)舗装工、付帯工	(事業中)工事推進		H26年度供用予定					・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(2/4) H15.4.26開通済 ・豊見城・名嘉地IC～豊見城IC L=2.7km(2/4) H20.3.22開通済 ・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(4/4) H26.3.31開通済
交通安全事業	一般国道329号奥間南交差点改良	・設計	・設計 ・用地買収	(事業中)設計・用地・工事の推進		早期供用予定／供用時期未定					早期完成は目指すものの、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定。
一般二次改築	一般国道58号恩納バイパス L=5.1km (恩納村瀬良垣～恩納村南恩納)	・環境調査 ・用地買収(南恩納地区) ・1号橋下部工 ・8号橋梁上部工 ・恩納地区改良工	・環境調査 ・1号橋梁上部工 ・恩納地区改良工	設計・用地・工事の推進 (逐次開通)		供用時期未定					・恩納村字瀬良垣～恩納村字南恩納 L=5.1km (2/4) H23.4.29開通済 ・平成27年度 交差点改良開通予定
維持修繕事業	耐震補強	補強対策0橋	補強対策2橋	補強設計、工事		経年事業等					・H8仕様書対応対象橋梁94橋・対策済み74橋(25年度末)

- ・観光客の誘致のみならず約5割増に対応する社会の構築が必要
- ・このため、これまで示した①～⑥のインフラ整備は不可欠
- ・観光地や活動の魅力、産業の力に、安全安心の確保、円滑な人・物の移動、快適かつ活力のある地域づくり、情報発信の充実等インフラ能力を加えた観光力の向上を図ることが重要

観光客1000万人時代のインフラ整備に向けて見える化の推進

- ▶課題の整理
- ▶事業評価(目標の明確化)
- ▶戦略的な整備の手順



事業計画・工
程表の活用

総合的な連携施策の立案

- ▶観光、運輸等の部局や民間との連携施策
- ▶関係機関の連携・協同